

12 小 社 310  
二 葉

教育部  
資料室

# のりものはたらき

文部省検定済教科書  
新教育実践研究所著

11 KD  
F97

第二学年(下)



60020

教科書文庫

6
300
32-1950
01304 49987

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

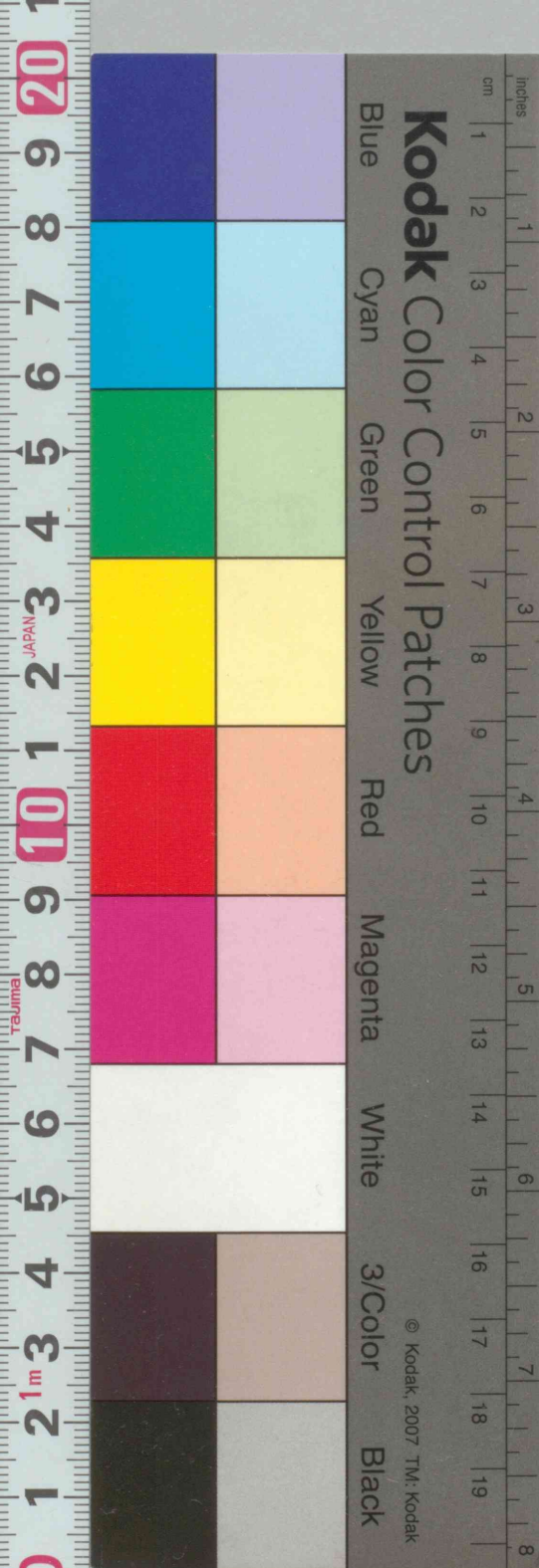


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





中央図書館

教科書文庫  
6  
301  
32-1950  
0130449987



のりものはたらき

第三学年 下

昭和二十五年 月 日  
文部省検定済小学校社会科用

広島大学  
教育学部図書

広島大学図書

0130449987

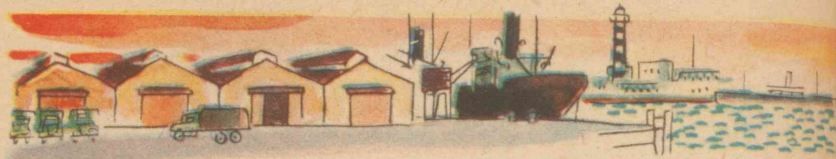


広島大学図書

0130449987







もくじ

一 船とみなと

えんそくのそうだん

みなと町へ

○電しゃにのって

○汽せんがいしゃへ

○はとば

○船とみなとあそび

五

五

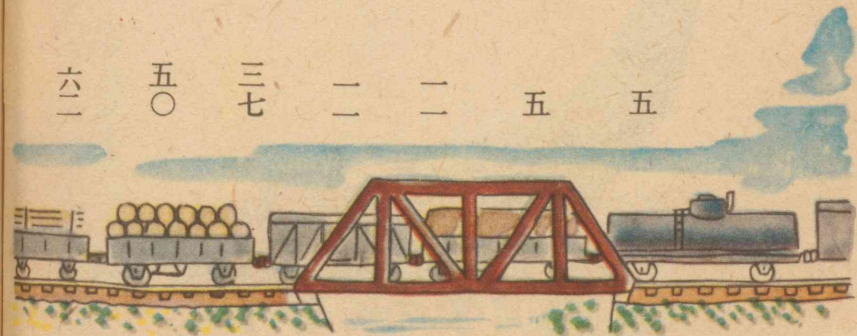
二

二

三七

五〇

六一



二 かもつとかもつれっしや

うれしいおくりもの

かもつ駅

駅のつみにおろしにしらべ

おじさんの出むかえ

のりものしらべ

はっぴようかい

七一

七一

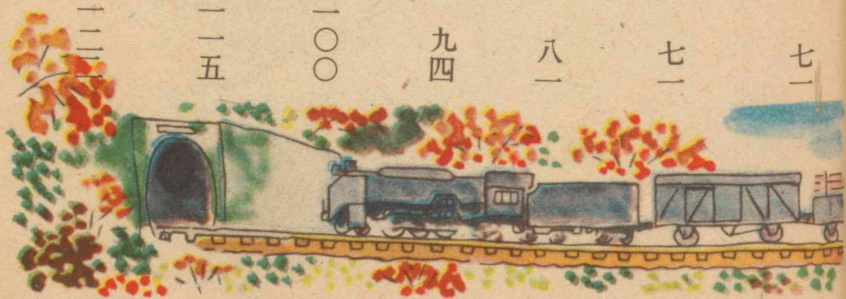
八一

九四

一〇〇

一一五

一二二





## みなさんへ

のりものには、りくを走るもの、海や川を走るもの、空をとぶもの、大そうはやく走るもの、たくさんのもつをはこぶものなど、いろいろとありますね。そしてどれも、私たちのくらしに大そうやくだっていますね。

この本には、しげるくんや町子さんたちが、のりもののはたらきをねっしんに、べんきょうしていくようすが書いてあります。

私たちも、じぶんたちの町や村のことをもとにして、のりもののはたらきをいろいろとべんきょうしていきましよう。

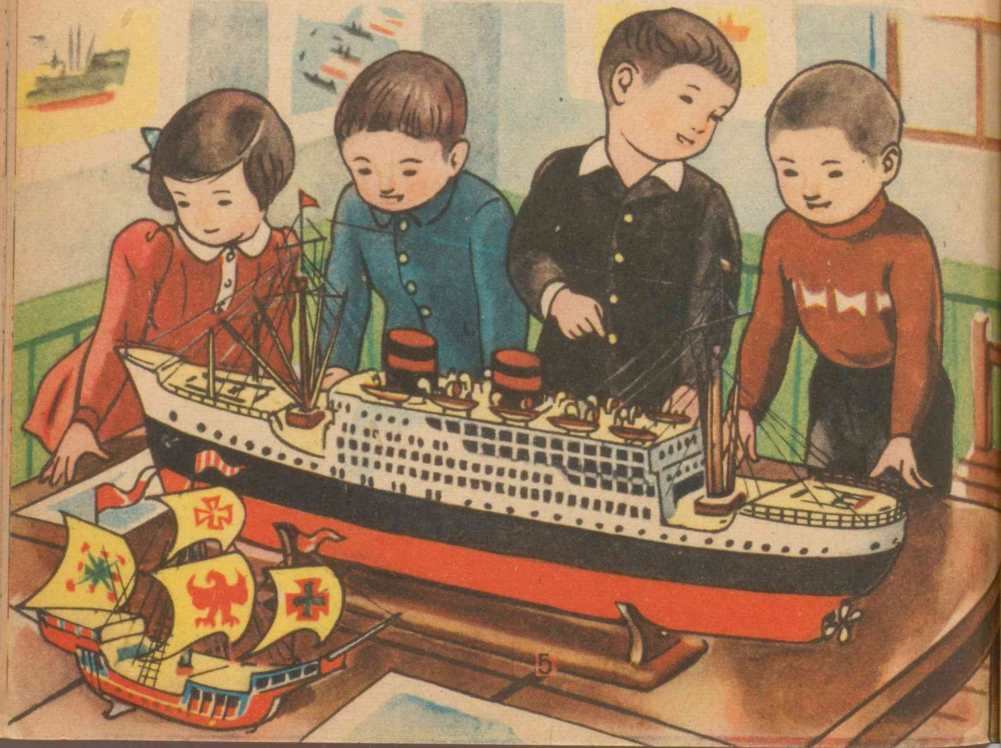
## 一 船とみなと町

えんそくのそうだん

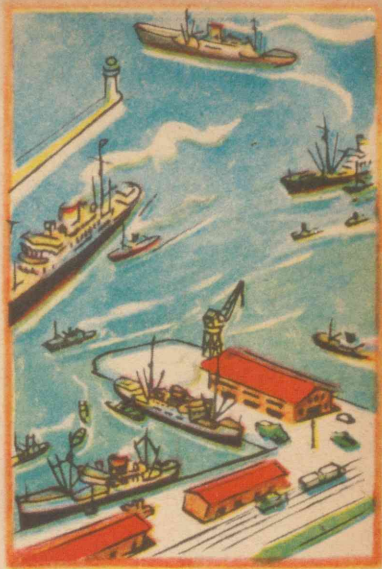
「あきらくん、この船のもけい、ずいぶん大きいね。」

「うん、これはみなとにある一番大きなきやくせんへいわの平和丸まろかもしれないよ。」

「きみ、見たことがあるの。」  
「そう、おとうさんとことしの







夏行った時にね。」

「このしゃしんはなに。」

「これが、みなとのとうだいよ。」

「これは、かもつせんた。」

「これは、みなとのえ地ずね。」

「いろいろな船をつくってあそびたいなあ。」

「このえ地ずを見て、教室にみなとをつくったらなお、おもしろいよ。」

しげるくんたちのくみでは、教室に先

生がよいした船のしゃしんや、もけい、

みなとのようすがわかるいろいろなえなどをかこんで、みんながさかんに話しあっています。みんなの話しあっているのをじっと見ておられた先生が、

「いろいろな船をつくったり、みなとのかたちを教室にくったりして、おもしろくあそぶのはどうしたらいいでしょう。」





ときかれました。みんなは、「え本を見ます」とか、「さんこうになる本をたくさん読みます」とか、「みなとへ一ど行ってみます。」などとこたえました。  
先生が、

「いろいろなものをなるべくほんとうのようにつくって、おもしろい『船とみなとあそび』をするために、一どみんなでみなとへ行ってきましよう。」  
とおっしゃったので、みんなはわあつとよろこびました。

みんなは、先生といっしょにけん学のそうだんをしました。

あきらくんとみち子さんのふたりは、行ったことがあるので、ふたりにかんたんな地ずを書いてもらって、みなとまでの道じゆんを話してもらうことにしました。みなとへ行っしらべるもんだいは、

○みななどには、どんなしゆるいの船



があるか。

○それらの船は、どんなしごとをしているか。

○みなとはどんなにできているか。



○みなとにはどんな人たちがいて、どんなしごとをしてい  
るか。

などにきまりました。

また、あきらくんたちのせつめいをもとにして、町の駅を  
出るじかんや、みなと町での道じゅん、かえるじかんなども、  
きちんときめました。

みなとの汽せんがいしゃにつとめているみち子さんのおと  
うさんがけん学の日に、みなとをいろいろあんないしてくだ  
さることになったので、みんな大よろこびでした。

けん学に行くときちゅうのちゅういや、りっぱなけん学のし  
かたについても、みんなて話しあいました。

### みなと町へ

### 電しゃにのって

きょうは、たのしみにまっ  
いたみなと町へ行く日です。

しげるくんは、おかあさん

につくっていたいだいた

おべんとうや、ちよう

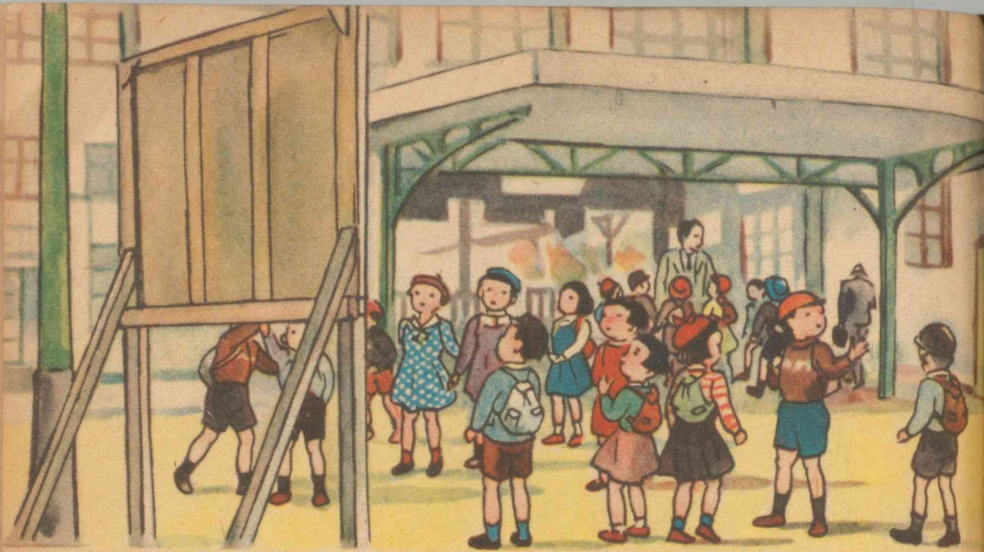
めんなどを小さなリュッ

クに入れて、町の駅へ

いそぎました。







もう駅のまえには、おおぜい友だちがあつまっていました。駅まえのひろばには、このごろつくられたばかりの、町の大きなえ地ずがあります。みんなは、そのえ地ずを見ながら、自分たちの家のばしよをさがしたり、きょう行くみなと町のあるばしよを話しあったりしています。

しげるくんは、このあいだあきらくんだちが、せつめいしてくれた時の地ずは、これをもとにしてつくったのだ

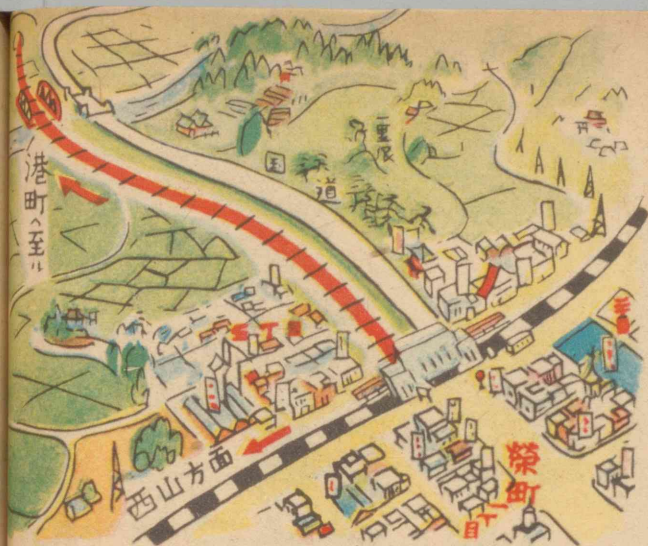


みなと町へつとめにでかける人たちが通るので、おもての戸がほとんどしまっているあけがたの町もさびしいことはありませんでした。

この町で、一番大きな林ひやくかてんのあるよつかどで、みち子さんにであいました。みち子さんはおとうさんといっしょでした。いろいろ話しながら行くうちに、いつのまにか駅につきました。



ろうとおもいました。



町の駅をちゆうしんにして、みなと町の方へ行くせんろと、ちがう大きな町へ行くせんろとが大きくかかれています。みなと町へ行くせんろにそって大きな道がはしっています。そのところどころにまつなみ木や、むかしから名高いところのことなどもえでかかれてあります。

道のすぐわきに一りづかとかいたところがあります。

しげるさんは、なんのことかわから

ないので、みち子さんのおとうさんにきいてみました。

「この道はむかしのかいどうで、鉄どうせんろのしかれないところは、みんなこの道を行ったりきたりしたものだ。しげるくんの見つけたのは一りづかといって、むかしのたびびとが、これをたよりにどのくらい自分があるいたか、そのみちのりをはかったものだ。電







しやのまどからもよく見ていると見えますよ。」

「おじさん、このせんろはいつごろできたのですか。」

「そうだね。今から三十年ほどまえかな。このせんろができてからは、この町もみなと町も、ずいぶんにぎやかな町になった。とくにみなと町は大きくなって、りっぱなたてものが、かぞえきれないほど立つようになった。」

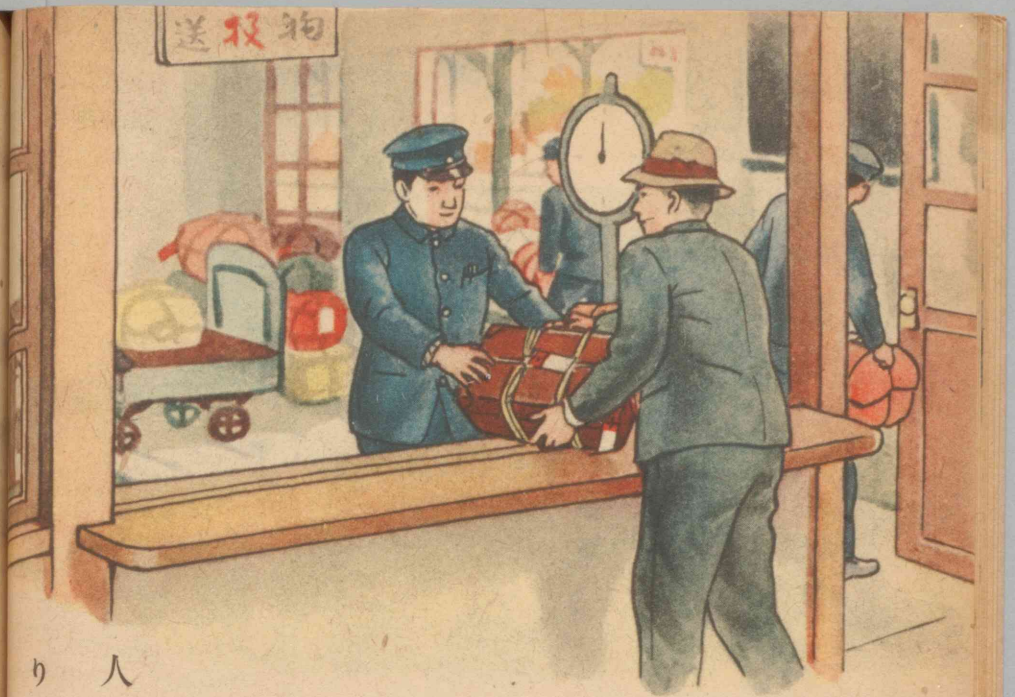
かいさつのじかんが近づいたので、みんなはならんで、先生のあとからまちあいじよの中へはいりました。

まちあいじよの中は、つと

めに出かける人たちでいっぱいでした。

長いこしかけに、こしをおろしてしんぶんを読んでいる人もおります。きつぷうりばのまえには、十五、六にんの人ならんで、小さなまど口から行きさきをいってはきつぷを買っています。見ていますと、ずいぶん早く買える人と、なかなかじかんのかかる人とがあります。





しげるくんは、みんなの人が  
 おつりのないように電しゃちゃん  
 をはらったたら、駅の人もみんな  
 もべりんだらうと考えました。  
 きっぷうりばのよこにつづい  
 て、こにもつを出すところがあ  
 ります。

どこかのおじさんが、なわでしつ  
 かりにづくりしたトランクを駅の  
 人にわたしています。こにもつがか  
 りのむこうには、五、六にんの人たち

がなにかいっしょうけんめい  
 つくえにむかってしごとを  
 しています。

「チンチンチシ」と電わ  
 きのベルがなると、駅の  
 人がすぐ出て、なにか話  
 しています。

「きつと、電しゃや汽しゃ  
 のことについて、とな  
 りの駅と話をしている  
 にちがいない。」



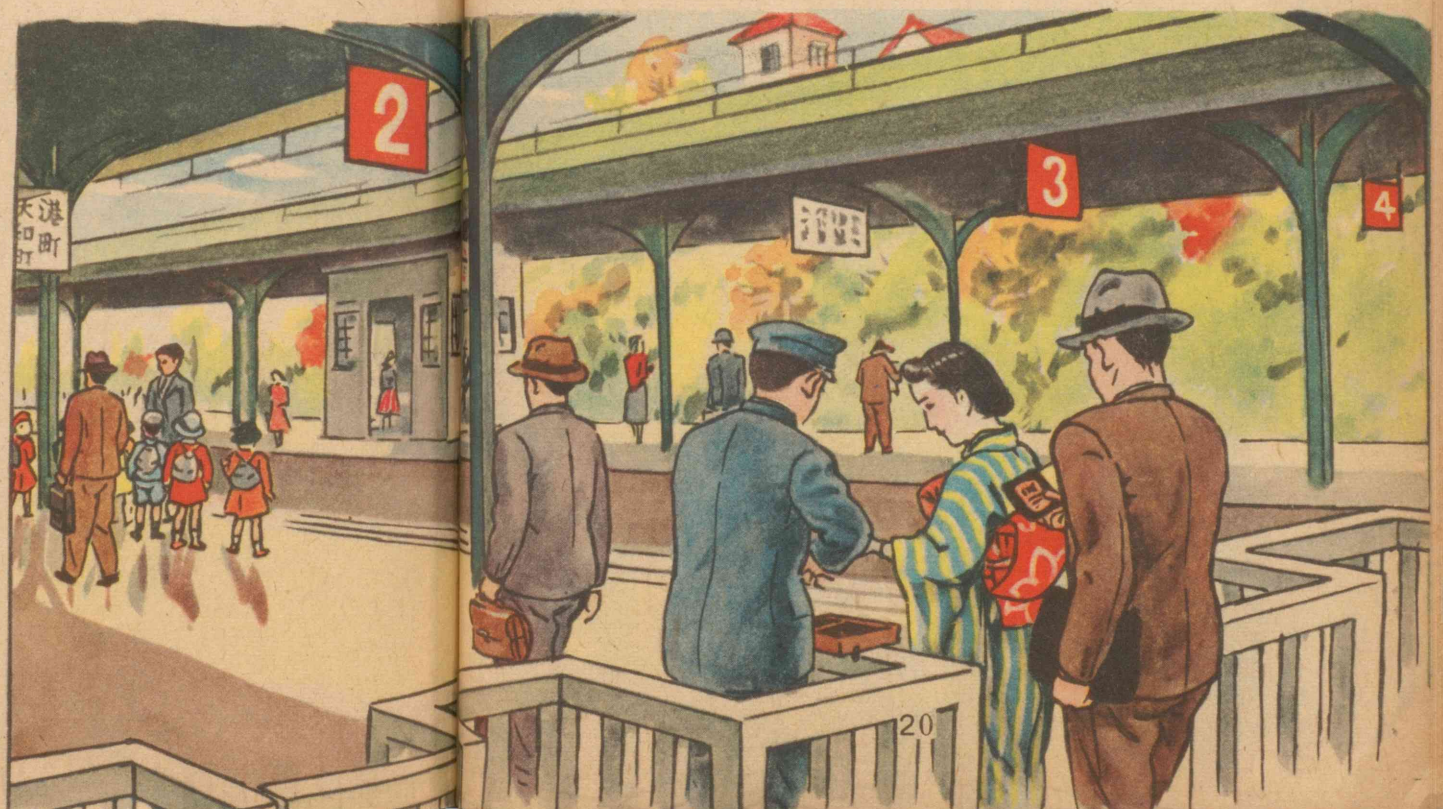


と、しげるくんは思いました。

やがて、かいさつがはじまりました。二れつにただしくならんだしげるくんたちは、先生のあとにつづきました。先生はだん体のじょうしやけんをかいさつの人に見せて、

「おねがいします。」  
と、いっています。

ていきけんを見せてかいさつ口を通る人たちや、きつぷをきつてもらってはいる人たちが、流れるようにプラットホームに出て行きます。「みなとへ行く電しやは、みなと町からくる電しやがおりかえして行くのだ」と先生がみんなにおしえてくださいました。まだ電しやはきていませんでしたので、







みんなは、白いせんよりさがってな  
らんでまきました。西山市の方へ行  
くせんろにかもつれっしやがすべ  
りこんできました。駅長さんらし  
い人が、プラットホームに立つ  
て、かもつれっしやをむかえま  
した。

「大きなざいもくがつんであ  
るなあ。」

「あれは、炭のたわらね。」

「あ、めんようがかおを出し

ているよ。」

みんなは、とまったれっしや  
のかもつにつんであるものを  
みて、にぎやかに話しあいまし  
た。しばらくして、かもつれっ  
しやは、大きな汽てきをなら  
して、駅を出て行きました。  
だんだん小さくとおざかって、  
けむりだけがのこっていきま  
す。

いままで、みどりだった駅



のはずれのしんごうとうが、いつのまにか（あか）にかわつていました。

やがて、みなと町の方から電しやがきました。

しげるくんたちは、二つの入口からのりました。みち子さんが、

「のる人の方がずいぶんおおいわね。」

と、しげるくんに話しました。みち子さんのおとうさんが、

「この電しやはみなと町へ近づくにつれて、ず

いぶんこんできますよ。

大きなみなと町の工場

や、はとばにつとめる

人がたくさんこの電しや

をつかうからね。」

と話してくれました。

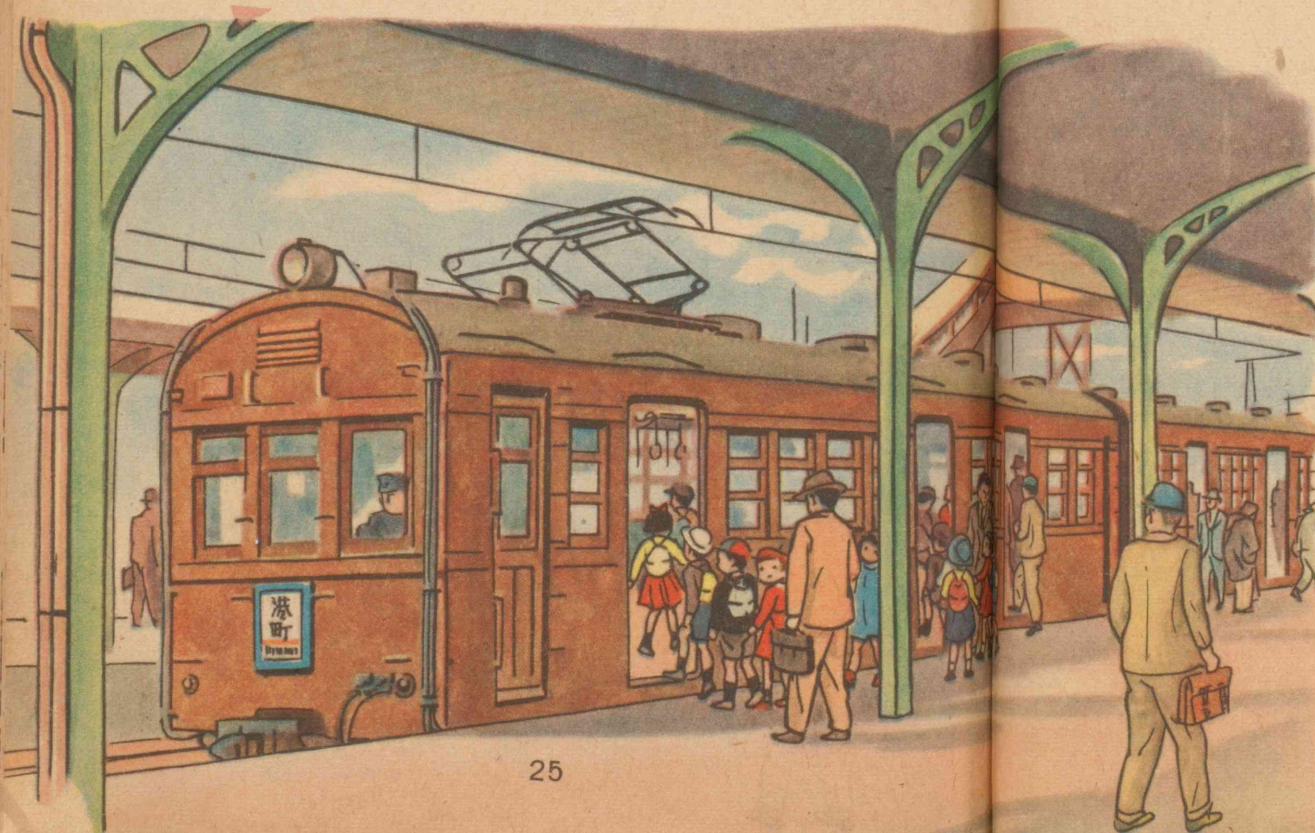
がたんとゆれて、電しや

がうごき出しました。

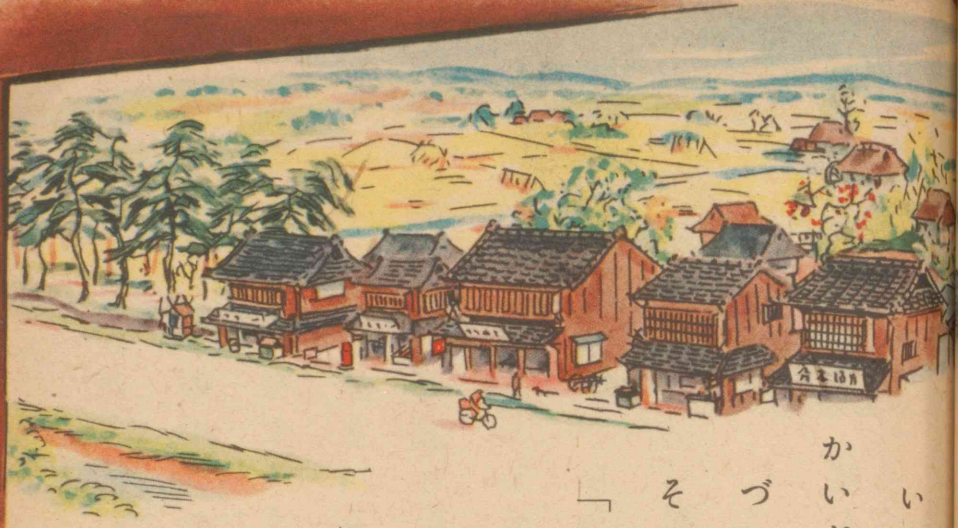
みち子さんのおじさん

といっしょに立っておら

れた先生が、うでどけい







いかでは、町のはずれのようになっている  
 かいどうにそって、こうしまどのある家がつ  
 づいて見えます。大きなまつの木も、道に  
 そって立ちならんでいます。  
 「むかし、ここはしゆくばだったの、そ  
 のころはきつとたび人でにぎわっていた  
 ことだろう。汽しやや電しやが通るよう  
 になって、町はだんだん大きくなってき  
 たのだよ。」  
 と、おじさんがしげるくんたちに話し  
 てくださいます。



を見て、  
 「ちようどじかんで  
 す。なかなかせい  
 かくですよ。」  
 と、おじさんに話し  
 ています。  
 しげるくと、みち子さん  
 は、せんろにそったか  
 いどうをまどから、  
 じつと見てい  
 ます。



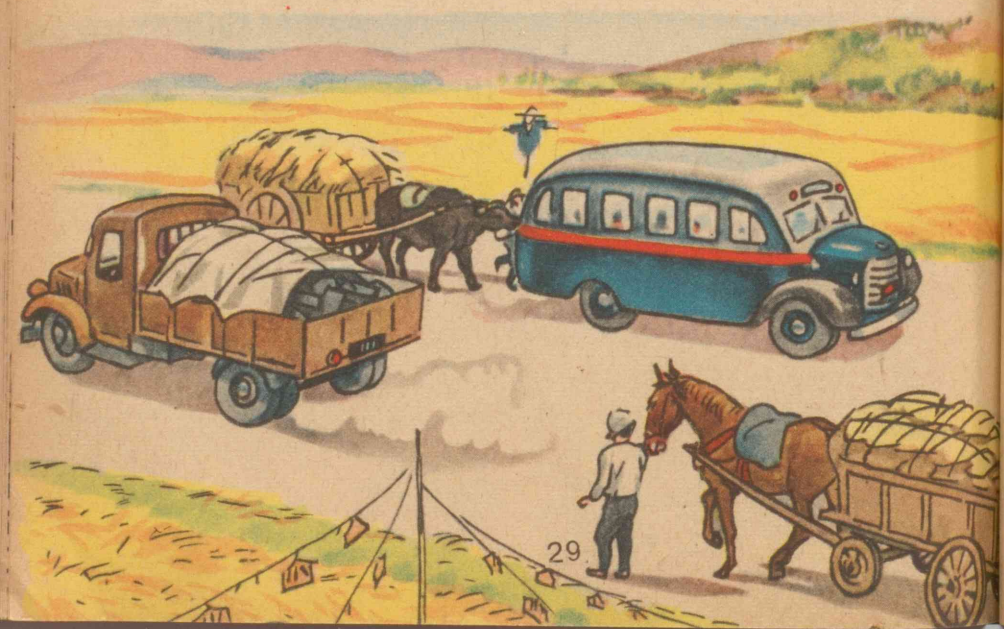


しげるくんは、駅の近くがにぎやかになるのは、おおぜい  
の人がのりものをつかって、行ききしたり、いろいろなこと  
にべんりだからだろうと、思いました。  
「ほう、あれがさつき話した一りづかだよ。」

しげるくんはおじさんのゆびさす方に、  
まがったふるいまつの木が、一本立ってい  
る小高いところを見つけました。  
電しやは、いくつかの駅を通りすぎまし  
た。おりる人よりものる人の方がおおくて、  
電しやは、だんだんこんできました。  
先生が、

「ようやく半分き  
たかな。あと一  
じかんぐらいだ  
ろう。」

とみんなに話してくださいました。  
さかえ町行きの電しやが「ガアーツ  
とすれちがって通りました。白くお  
びのように見えるかいどうには、バ  
スやトラックや、馬や牛がひくに車が  
さかんに通っています。  
しげるくんは、いつかおとうさん







から、自分たちの町からみなと町へ通っている道は、こくどうだとおしえてもらったことを思いだしていました。両がわのたんぼは、いまがとり入れのまっさい中のようで、のかの人たちが、もう、のらにでて、いそがしそうにはたらいっているのが見えます。電しやが「ゴウゴウ」と大きな音をたてて、鉄きようをわたったあとで先生が、

「こんどは、トンネルにはいるよ。」

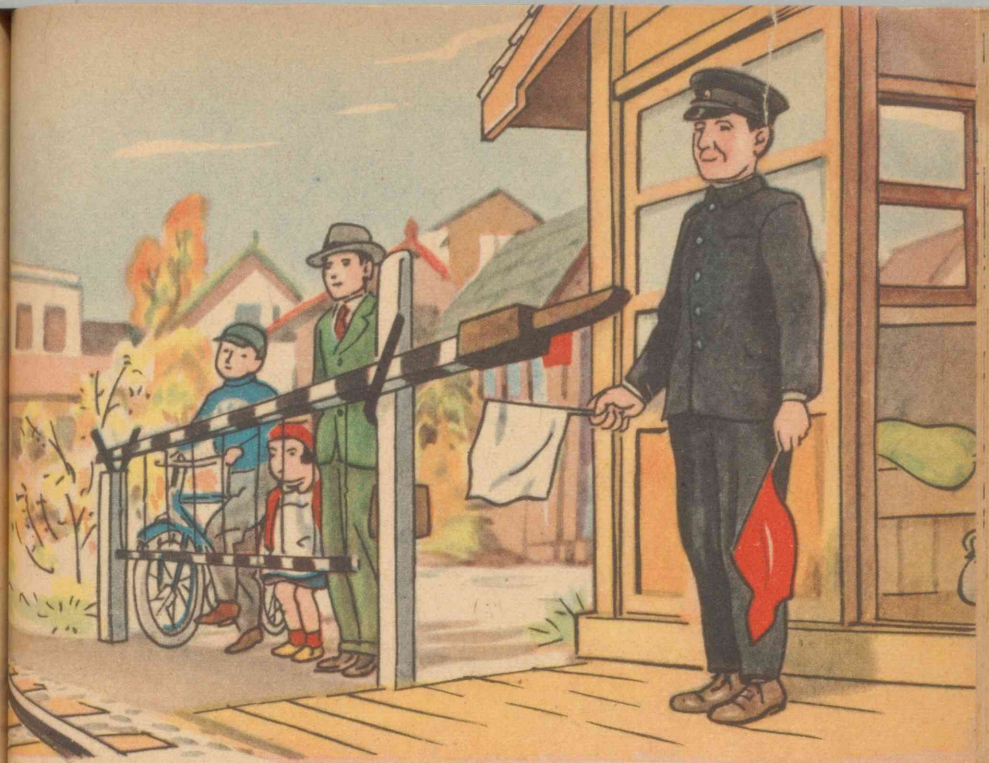
といわれました。今までせんとろといっしょに走っていたかいどうが、山にそって右の方へ大きくまがっています。

トンネルを出ると、ずっとまえがとおくまで、ひらけて海が見えてきました。

町はずれのかいがんには、まつの木が林のようにつづいて見えます。電しやはやがて、町の中へはいりました。大き







なコンクリートのたてもものや、工場のえんとつ、長くつづいたそうこなどが見えます。

いくつかのふみきりを通りました。ふみきり番のおじさんが、しゃだんきをおろして、白いはたをよこに出しています。電しゃはだんだんはやさをゆるめて、ひろい大きな駅にすべりこ

みました。

かくせいきから、なんかいもこの駅の名まえが、つたえられます。

おりたはんたいがわのホームに、電気きかんしゃのついたれっしゃがとまっています。きやくしゃのまどの下に、西山行とかいたものがかけてあります。

「これにのると西山市まで行けるのだな。」

と、しげるくんは思いました。







駅の人がに車をひとりであらうんてん  
 しながら、にもつしゃのところへ  
 にもつをはこんでいます。先生が、  
 「あれは、電気のでうごかして  
 いるのです。トラクターといっ  
 て、大きな駅ではよくつかわれ  
 ています。」  
 と話してくださいました。  
 ゆうびんしゃには、干というし  
 るしのついた大きなつみをつみ  
 こんでいました。いくつかのホー  
 ムが、べつにつくられて、たく  
 さんの電しゃや、汽しゃや、か  
 もつれっしやがうごいていたり、  
 とまったりしています。先生が、  
 「こんなにたくさん電しゃや、  
 汽しゃが、まい日安ぜんに、  
 そしてきまりどおりのじかん  
 にうごくのには、たくさん  
 の人たちが、いろいろなし  
 ごとをうけもってのはたらいて  
 くれるからです。」



と話してくださいました。

しげるくんたちは、コンクリートの長い地かどうを通過して、出口から駅まえに出ました。

ゆうらんバスとかいてある大きなバスが、駅まえにとまっていて、二十人ばかりの人たちがそのバスに乗りこんでいるところでした。みち子さんのおとうさんが、

「この町には、ずいぶんいなかの人たちがけんぶつにやっ

きます。このごろでは、がいこくの人たちもみえるようになりましてよ。」

とみんなに話してくださいました。

### ○汽せんがいしゃへ

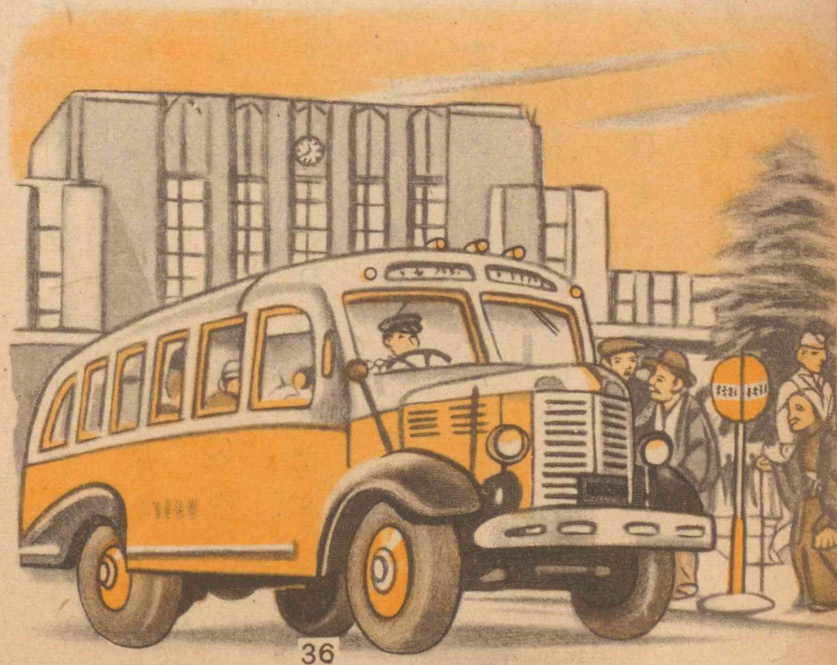
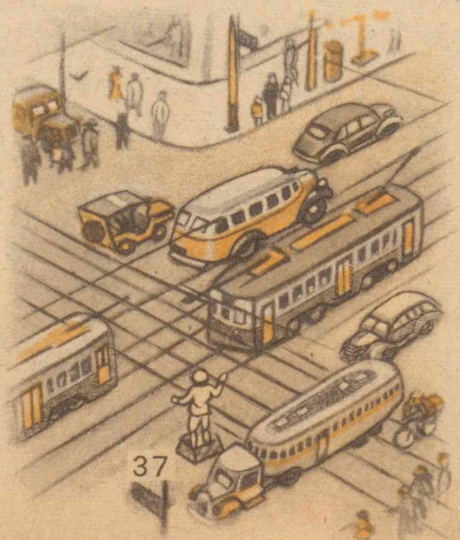
みんなは、電しゃにのって、はじめにみ

ち子さんのおとうさんのつとめている汽

せんがいしゃへ行くことにしました。

電しゃはにぎやかな町の大通りをゆっくり

走って行きます。四つかどのまん中には、こうつうせいののおまわりさんが立っていて、つぎからつぎと流れるように





つづいてくる、いろいろなものや、おおぜいの人びとの  
通るさしずをえています。「ピリ、ピリ」とふえをふいて、両手をあ  
げると、今までとまっていた一方の人びとや、車がうごき出します。  
「みんなの人が、きそくをしっかりまもっているから、こん  
なにはげしく車が通っても、こうつうじこはめったにない  
のですよ。」

と、先生がおっしゃいました。

電しやは、やく二十分ぐらい、大きなたてもものならんだ  
町を通って走りました。

右がわのまどから、外を見ていたしげるくんが、

「あっ、大きな汽せんだ。」

「えんとつも見えるよ。大きいなあ。」  
とみんなに知らせました。

「みなさん、このつぎでおりますよ。」

と、みち子さんのおとうさんがおつ  
しゃいました。

ぜいかんまえで電しやをおりたみん

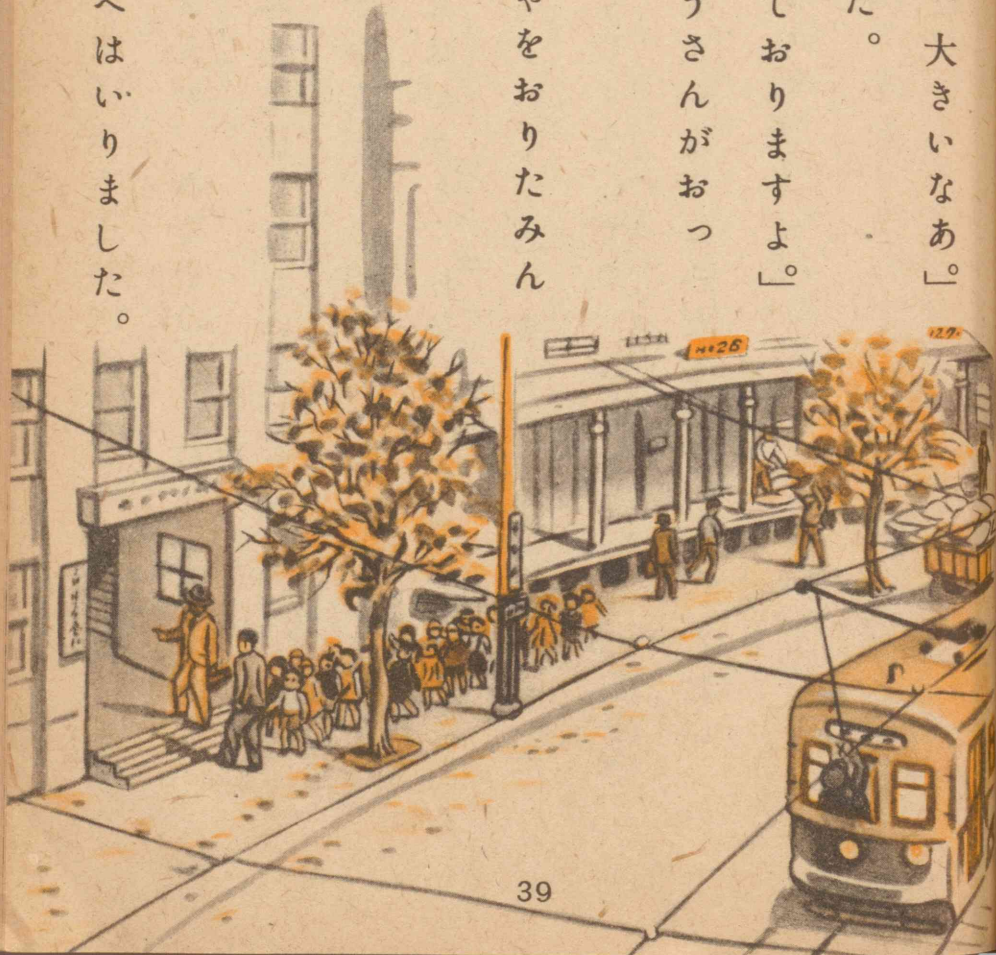
なは、プラタナス

の木のうちである

ほどうを通って、

コンクリート四かい

だての汽せんがいしやへはいりました。







みんなは、かいだんをのぼって三がいのへやへ行きました。  
みち子さんのおとうさんが、みなとのえはがきと、大きな  
汽せんのえはがきを、みんなにくださいました。

しげるくんは、みち子さんが、このまえ教室へもってきて、  
みんなに見せてくれたえはがきと、おなじものをいただくこ  
とができたので、とてもうれしく思いました。すこしやすん  
でから、かいしゃのおくじょうへでて、みなとのようすをな  
がめました。すぐ目のまえに大きなみなとが、いまいただい  
たえはがきのようにきれいに見えます。

「大きな汽せんだなあ。」

「いろいろの船があるね。」

みんなは、みなとのようすを目のまえ  
に見て大よろこびです。それからみち子  
さんのおとうさんのまわりにあつまつて、  
いろいろせつめいしていただきました。

「みんなが大きいなあといっている船は、  
かもつせんといって、にもつをはこぶ  
ことを一ばんおもしろいにしていま  
す。だから、船の中はにもつをたくさ  
んつみこめるように考えてつくられて  
います。」

「船は、みんなそのつかいかたによって



つくりかたが考えられているからです。」

「おじさん、どのくらいのにもつが、つめるのですか。」

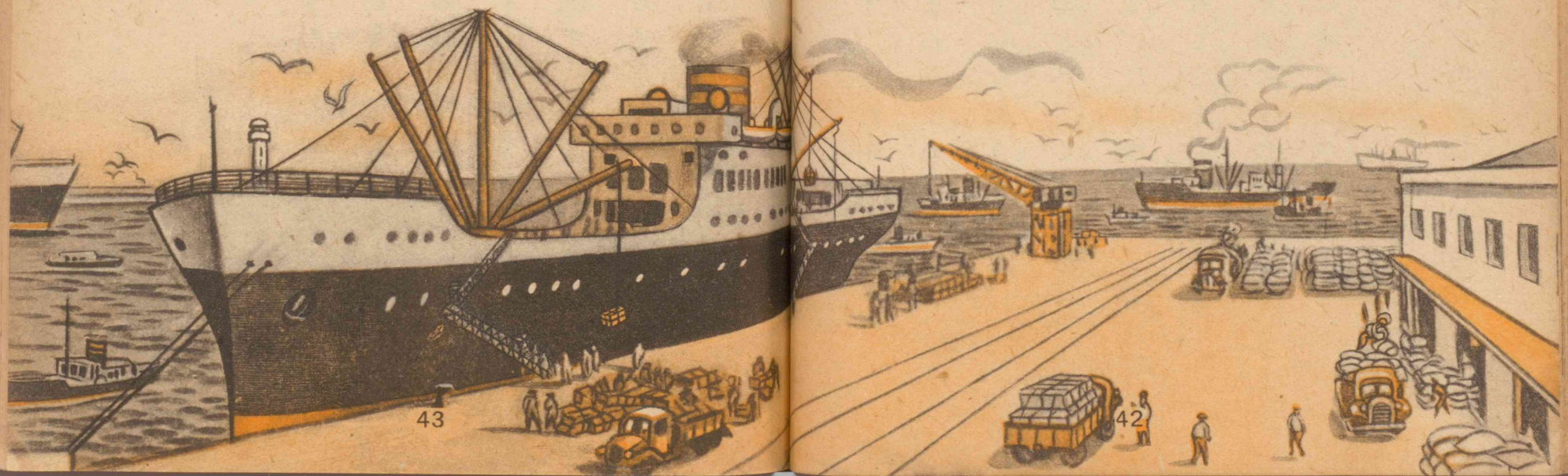
「そうですね。みんなにはなんトンと、いってもわからないなあ。あの船のにもつはかもつれっしやで、十れっしやぶんくらいつめるかな。」

「ずいぶん、たくさんつめるのだなあ」とみんながおどろきました。

「おじさん、そんなにたくさんものにもつをどうしてつんだり、おろしたりするのですか。」

「あとではとばへ行ってみるとよくわかるが、クレーンをつかって、どんなかたづけけますよ。小さな船では荷役にやといって、つんだりおろしたりするしごとを人がやっているところもあります。」

「そんなにたくさんものにもつを、どこにおくのですか。」





「おじさん、それは、あそこに見えるそうこに、おくの  
でしよう。」

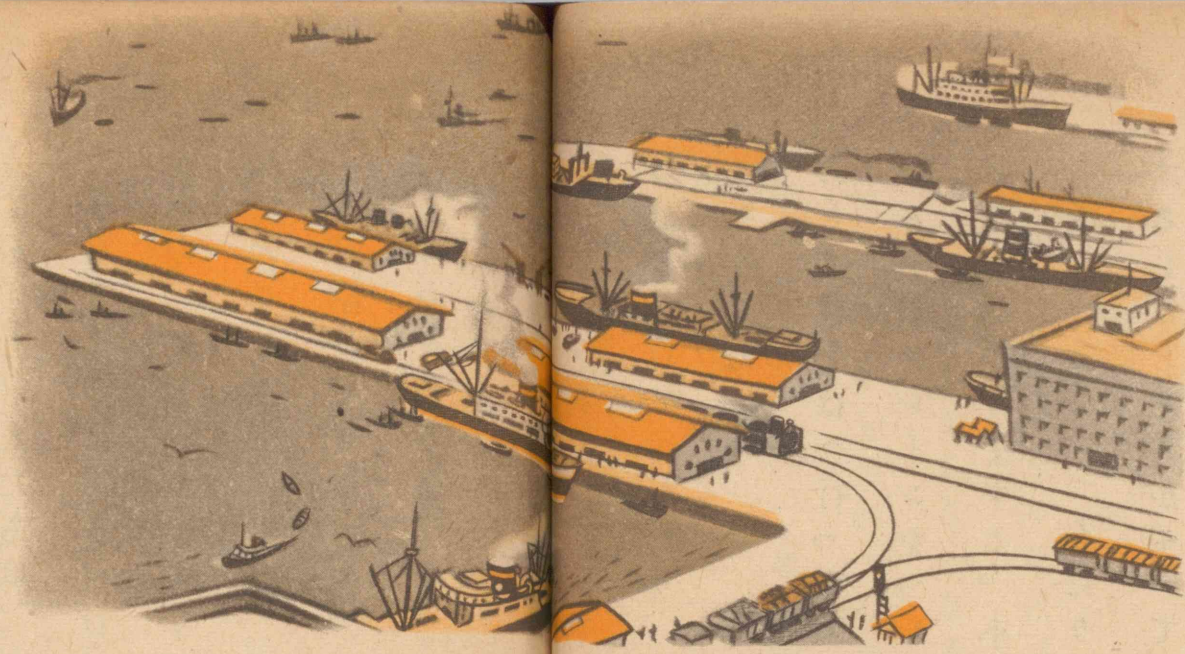
あきらくんが、はとばにつづいて  
ならんでいるいくむねかのそ  
うを指さしながら、こたえました。

「そうです。あのそうこにしま  
ておくのです。あのそうこの  
ころまで、駅からせんろがしか  
れてあるでしょう。かもつ  
の駅ができていますよ。この  
みなどからつみこむにもつも、  
このみなどにおろしてあちこ  
ちのとちにおくるにもつも、  
みんなあそこでやっているの  
ですよ。」

「おじさん、船とかもつれっ  
しやがなかよくしごとをうけ  
ついでいるわけですね。」

と、しげるくんがいました。

先生がにこにこわらっておし  
や



いました。

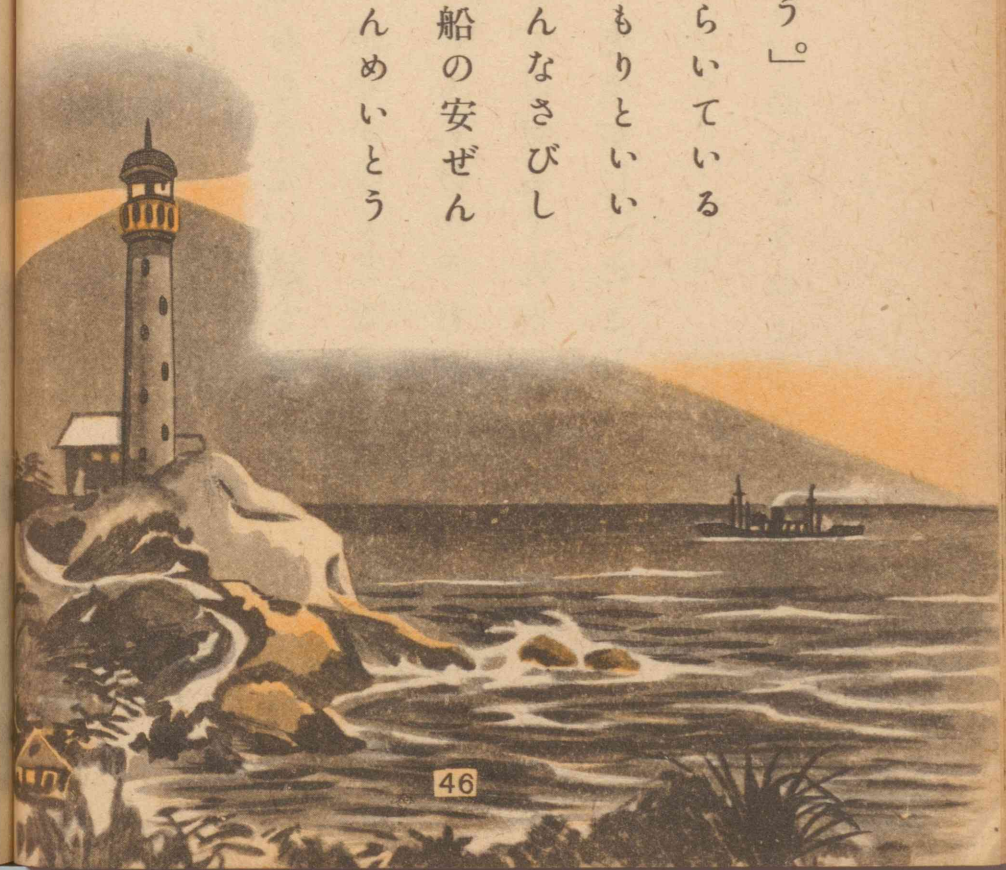
「あのずっとむこうに見える、高い  
とうのようなものは、な  
んですか。」



「だれか、わかりませんか。」

「おじさん、とうだいでしよう。」

「そうです。とうだいにはたらいにいる人たちのことを、とうだいもりといいますが、あの人たちは、あんなさびしそうなところに、まい日、船の安ぜんをいのって、いっしょうけんめいとうだいのしごとをしています。船が星もないまっくらな海を通るような時には、とうだいのあ



かりだけが、目じるしになるのです。ひろい海のおくまでわかるように光らせるのだから、とうだいの光は、ひじょうにつよい光をだすようにつくられています。」

「船にのっている人たちは、どこのとうだいかを、なんで見わけるのですか。」

「なかなかよいところに気がついたね。とうだいは、どこもみんなちがう光のだし方をするので、それによって見わけるのです。」

しげるくんは、とおく波うちぎわのがけの上に立っているとうだいを見ながら、とうだいもりの人たちの心を考えました。



「おじさん、あの船はなんという船ですか。」  
 「あれは、ゆそうせんといって、あぶら  
 をつんではこぶ船です。いまがんべ  
 きによこづけになっているのが、函  
 館まで行ったりきたりしているきや  
 くせんです。すこしとおくの方に  
 見える大きな船は、みんなもよく  
 知っているほげいせんです。あの  
 きやくせんは、ごご四じに出ます  
 から、あとでその船の中に入って  
 見せてもらいましょう。」

みんなは、「わあっ」といっ  
 てよろこびました。

「大きな汽せんがあるので、  
 ぎよせんやはしけはずいぶ  
 ん小さく見えるでしょう。」  
 と、先生がそばから、みんな  
 におっしゃいました。みんな  
 はいろいろなことを話しながら、  
 おくじようでたのしくおべ  
 んとうをたべました。

おわってから、みなとや船のえをかいたものもいました。





○はとば

みち子さんのおとうさんと、きせんがいしやのもうひとり  
の人にあんないしていただいて、はとばへいそぎました。

かいがん通りのひろい道を通っていくと、汽せんのマスト  
や、ふといえんとつが、すぐ目のまえにはつきりと見えてき  
ました。

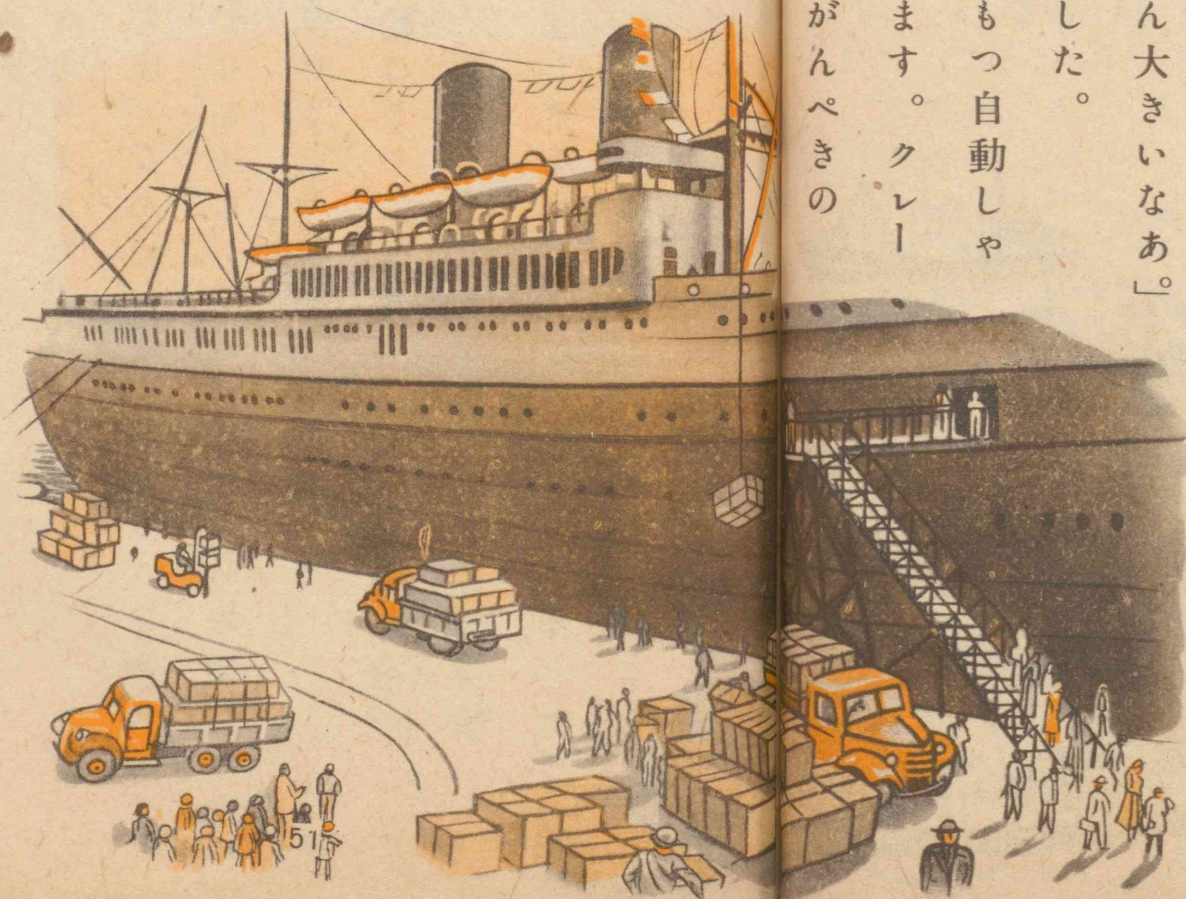
「そばへくると、ずいぶん大きいなあ。」  
と、しげるくんは思いました。

ひろいはとばには、かもつ自動しや  
が、ゆっくりうごいています。クレー  
ンをつけた自動しやが、がんぺきの

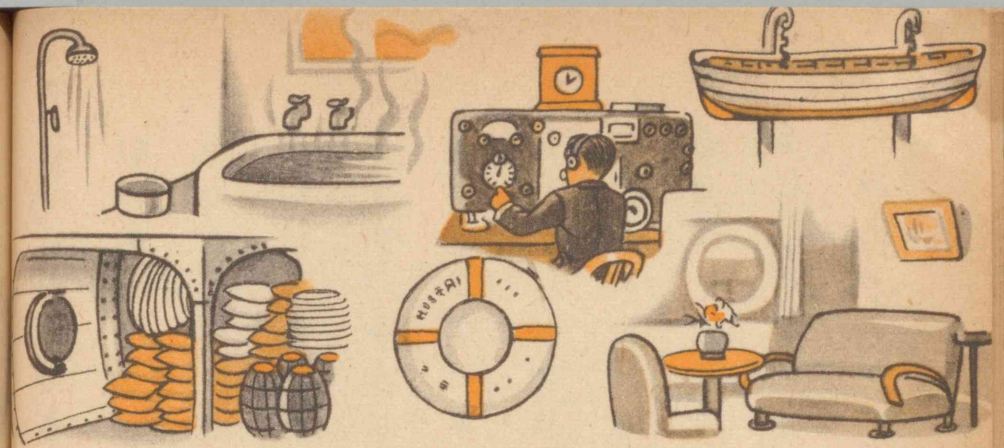
近くにとまっています。

駅にあったものより大  
きいトラクターでさか  
んにもつをはこんで  
います。みんなは、じゃ  
まにならないように、  
気をつけながらよこづ  
けになっているきやく  
せんのそばへよって見  
ました。

みち子さんのおとうさんが、せんいんさんにおねがいしてあ







りましたので、みんなは、汽せんのわきにかけてある小さなはしを、わたって、すぐ船の中へ入りました。

こんどは、この船のせんいんさんにあんないしてもらって、船の中のいろいろなところを見せていただきました。

この船はきやくせんなので、きやく室がとても、りっぱにつくられていました。船の中のよく室を見て、しげるくんはすっかりかんしんしてしまいました。おきやくのためのしよくどうなどもありました。

かんぱんにでてみました。

五、六にんのせんいんさんたちが、いっしょうけんめい、かんぱんをそうじしていました。

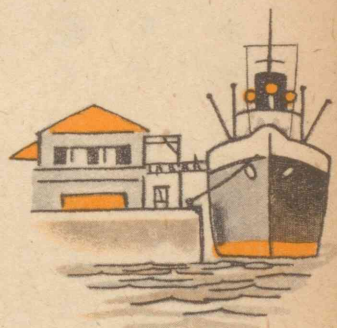
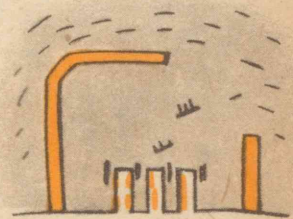
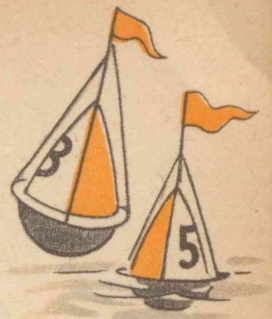
クレーンが、さかんにうごいて、りくにあるにもつを船の中につつけています。

マストにたかくあがったはたが、風になびいています。まっ黒なふといえんとつからは、けむりがさかんに出ています。

えんじんの音が、たえず船いっばいに小さくひびいて、なんだかうごいているようです。

船の両がわには、ボートがなんそうかついていました。





せんいんさんが、

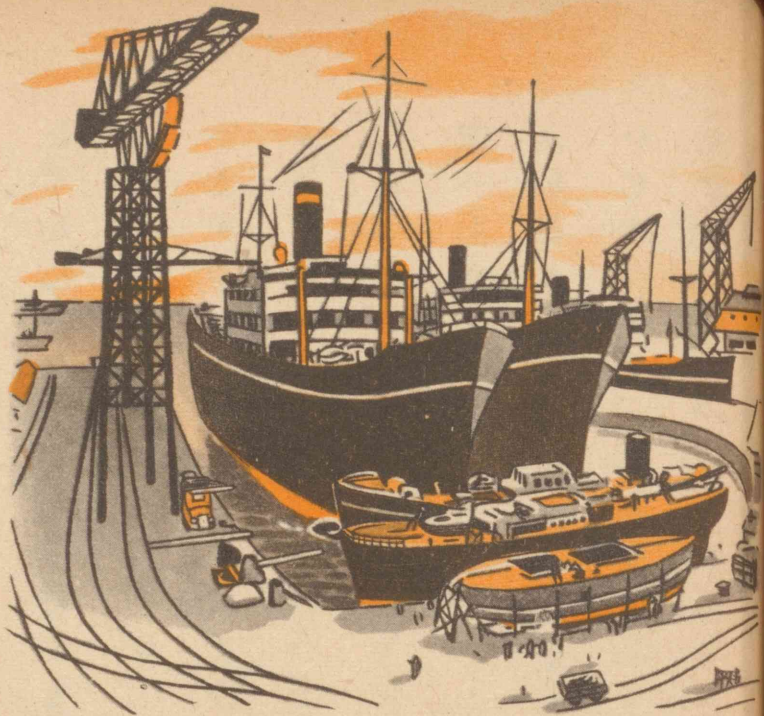
「船が岩にのりあげたり、はげしいあらしにあってたおされ  
るといふような、もしもの時には、このボートにおきやく  
をのせるのです。ほかにからだにつけるきゆうめいぶくろ  
というのもあります。もちろんそんなときには、むせん電  
しんをつかって、すくいをもとめるようになっていきます。」  
と話してくださいました。

船の中のくらしについての話や、みなとの安ぜんをまもる  
ためにつくられているものについても、いろいろ話していた  
いただきました。そろそろ、おきやくさんがのりこんでくる、と  
いうので、しげるくんたちは、船の人たちにお礼をいって、  
出ることにしました。

おりてから、一つのそうこの入口が大きくあいていたので  
しげるくんたちは、中を外から見せていただきました。  
きれいにづくりされた大きい木のはこが、たくさんつん  
でありました。

「これは、がいこくへおくり出すおりものです。今、ここに  
あるのは、きぬおりものがおおいようです。」





汽せんが、しゅっぱんするのでしよう。ふりかえって見る

がきこえてきました。

はとばの方から、ドラの音

います。

う音が、ひっきりなしにして

でしようか。「カンカン」とい

ふといくぎでもうちこむの

うぜんをしていました。

ぜいの人たちが、その船のしゅ

にひきあげられていて、おお

大きなかもつせんが、りく

と、汽せんがいしゃの人が、おし  
えてくださいました。  
「ぼくの町にある、きぬおりもの  
工場で作られたものも、この  
中にあるかもしれない。」  
と、しげるくんは、思いました。  
そして、きよねんの夏、いなかへ  
行ってかいこのまゆを見たことを  
思い出しました。  
かえりは、ぞうせんじよの方へ  
まわって見ました。





とさっきの汽せんが、がんばきからはなれて、白い波のおをひきながら、しずかにみなとを出て行くところでした。見おくりの人たちが、まだハシカチをふっています。ぞうせんじよを見てから、みんなは、みち子さんのおとうさんたちにお礼をいって、駅へむかいました。

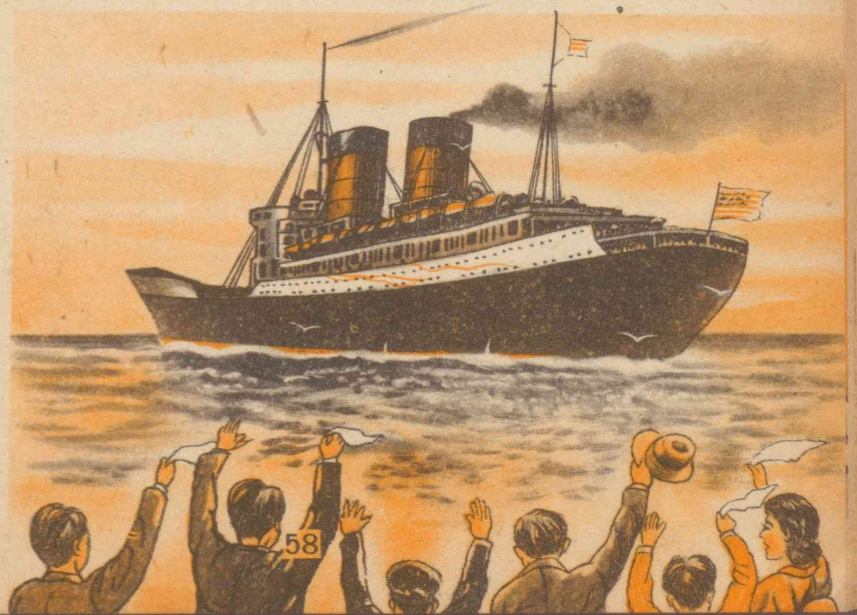
かえりの電しやをまつ、駅のまちあいじよの中で、みんなはきょうのけん学について、いろいろなことを話しあいました。

みち子「いろいろ見た船の中で、私はきやくせんが一ばんいいと思つたわ。」

あきら「ぼくは、かもつせんが一ばんいいな。たくさんにもつをつんで、みんなのために役に立つのだから。」

しげる「それは、きやくせんだつてほかの船だつて、おなじだとぼくは思うよ。いろいろな船は、みんなそのつかいみちによつて、役に立つようにできているのだもの。」

先生「それは、しげるくんという通りだね。だが、船にたくさんのもつがつめるのには、みんなおどろいたでしよう。」







あきら「先生、船が汽しやのように早いとべんりですね。」  
先生「そうだね、しかしこれからはだんだんくふうされて、早くはしる船がつくられるようになるでしょう。日本でつくられたしなもの、がいこくのものにおくられたり、がいこくのものが日本にはこばれたりするの、船はなくてはならない大せつなものだからね。」

しげる「先生、きようはとてもおもしろくてよかったです。はじめにきめたけんきゆうするもんだいがみんな、わかったような気がします。」  
みち子「私は早く船とみなとのあそびをはじめたくまりました。」

しげる「あしたからやらせてください。」  
いつのまにか、みんなが先生のまわりにあつまって、船とみなとのあそびについて話しあっています。  
あきら「先生、かえったら、一ばんさきにおせわになったかたがたにお礼のてがみを出したいと思います。」  
先生「それはいいことだ、みんなでそうだんして出すよ。うにしましょう。」

このとき、駅のかくせいきが、さかえ町行のかいさつがま



もなくはじまることを知らせました。みんなは、ならんでわすれものがないか、もう一どたしかめました。

### 船とみなとあそび

しげるくんのくみでは、けん学したことをもとにして、船とみなとのあそびのしかたを、みんなでそうだんしています。

「どんな船をつくりましょうか。」

と、先生がおっしゃいましたので、みんなは、

「あそびがおもしろくできるように、いろいろなしゅるいの船を、たくさんつくりたい。」

「僕は、大きなたい汽せんをつくりたい。」

「わたくしは、水さきあんないをする船をつくりたいわ。」

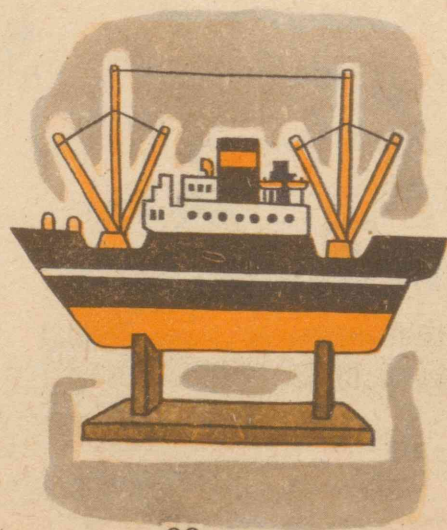
「ぼくは、貨もつせんだ。」

などと、みんなはいろいろなしゅるいの船の名まえをあげました。先生が、

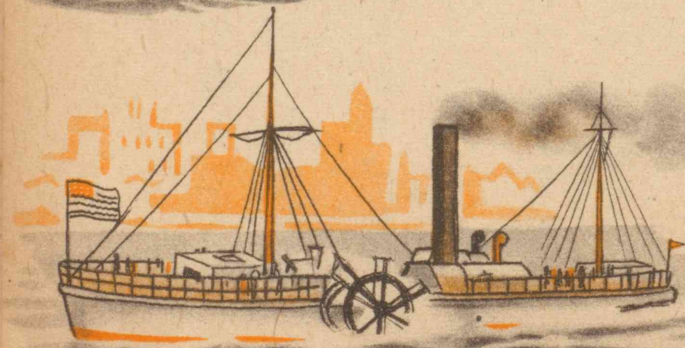
「しっかりじゅんびをしなさい。」

とおっしゃって、船をつくるどだいになる木を、めいめいにわたしてくださいました。

みんなは、けん学してしやせいしてきた船のえや、えはがきや本の中から、自分のつくる船のえをさがして、つくる用意をはじめています。つくる船のえ

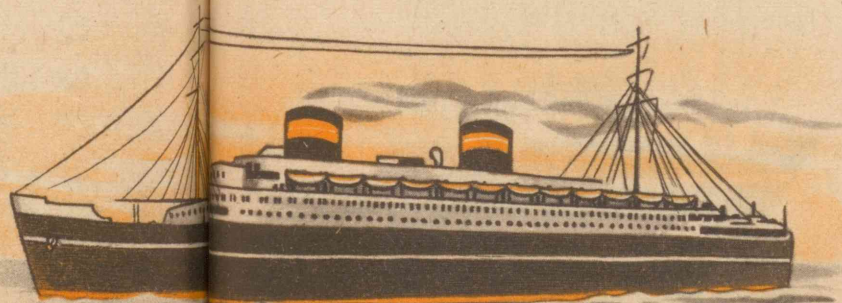






「ボー、ボー、すこしそこをどいて下さい。」  
早くできたものは、じぶんの船を教室の  
しょうけんめいです。  
「ボー、ボー、すこしそこをどいて下さい。」  
早くできたものは、じぶんの船を教室の

をボール紙にかいてきりぬき、木にそれを立てて、船の形を  
とるようにくふうしている人もいます。先生が  
「みんなのあつめたえを、ぜんぶよませてせ  
いりしたら、船のてんらん会もできるね。」  
とおっしゃいました。  
あきらくんは、  
「むかしからの船のえをだんだんりっぱに  
なったじゅんじょにあつめたらいい。」  
という意けんを出しました。  
「日本にある船とがいこくの船とをくらべ  
るようなことはどうですか。」  
という人もいました。みんないい意けんだ  
と先生がおほめになりました。用意は、な  
かなかじかんがかかりますが、みんなはいっ  
しょうけんめいです。





ゆかで、おしまわしはじめました。

「ぼくは水さきあんだいをする船ですよ。みんなあとからいらっしやい。ポーポー。」

などといっている人もあります。しげるくんが、

「港のいろいろなものをつくってからでないとおもしろくないよ。」

といったので、みんながさんせいして、早くできたものだけが、教室を、見てきたみなたのようにつくるくふうをはじめました。ひっこみせんのかもつ駅



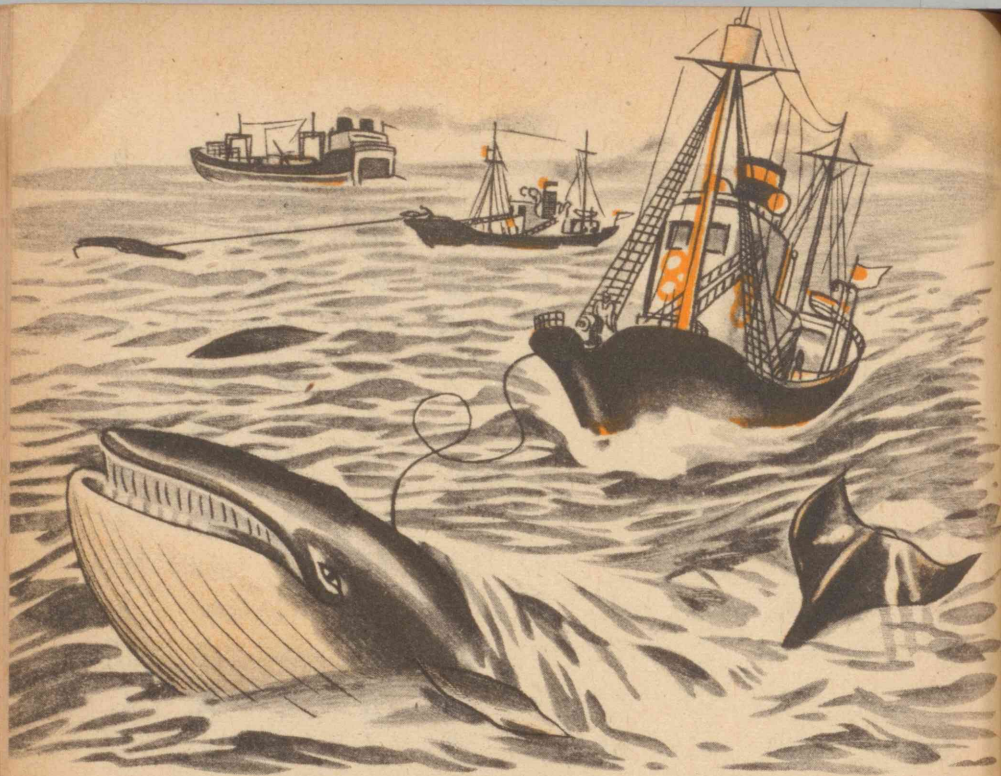
ではたらく人になる人や、そうこがかりの人などには、みんながかわるがわるなることにきめました。とうだいやふひょうや、船のとまるばしや、ぼうはていなどもそうだんしてつくりました。そろそろみんなの船ができたので、にぎやかにはじめました。じぶんでドラの音をまねながら、

「しゅっぱんですよ。早くのってください。」

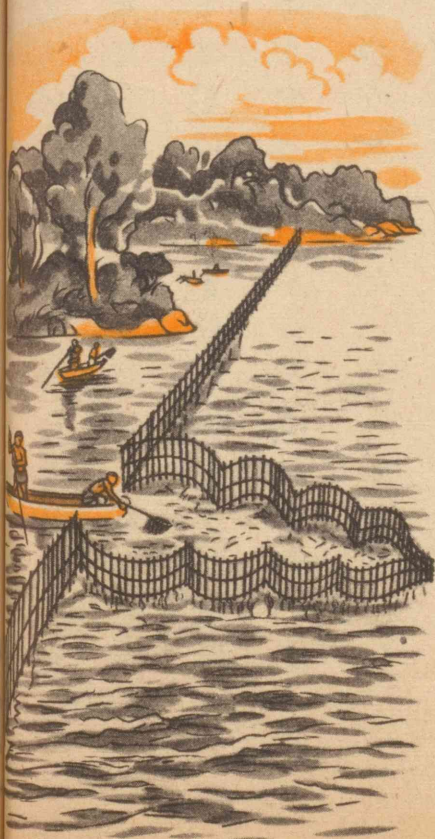
などといっている人もいます。かもつつつみおろしをまねてやってくる人もあります。

「くじらで船がおもいよ。」





などといって、みなとへはいってくる人もいます。先生が、  
 「どこでどうやってとってきましたか。」  
 とおききになりましたので、いままでとくいになっていたま  
 さおくんはすっかりこまってしまいました。そこで先生がみ  
 んなにくじらをとることや、またほかの魚のとりかたをおも  
 しろくお話になりました。  
 つりでとるしかた、つ  
 きぼう、あみでとるしか  
 たなど、とてもおもしろ  
 いと思いました。



あきらくんが  
 「なんにちもこうかいする  
 から、水や、たべものを  
 たくさん用意しますよ。」  
 といいながら  
 そのまねをはじめました。  
 先生が、にこにこわらいな  
 がら  
 「船のせいかつはたのしみ  
 がすくないから、レコー  
 ドや、本などもたくさん



もって行きなさいよ。」と話していらっしやいます。

「わたくしの船は、たくさん、さとうをつんだがいこくせんよ。早くおろして、日本じゆうにおくってね。」

と、みち子さんが、げん気よくいっています。

ひっこみせんのかもつがかりをやっているしげるくんが、

「うけついでにはこぶのだから、リレーみたいだなあ。」

といそがしそうです。そうこがかりのかず子さんが、

「みち子さん、こんどはこのにもつをがいこくへはこんでく

ださい。」といって、「おりもの」とかいた小さなつつみを、

わたししています。しげるくんたちのくみは、みんながしごと

をなかよくうけもって、とてもおもしろそうにやっています。

## 一 かもつとかもつれっしや

うれしいおくりもの

正月しんがつもまじかいある日のごごでした。

「ゆうびん」といってゆうびんやさん

が、しげるくんのうちにてがみをくば

って行きました。しげるくんが、すぐ、

おかあさんにおとどけすると、

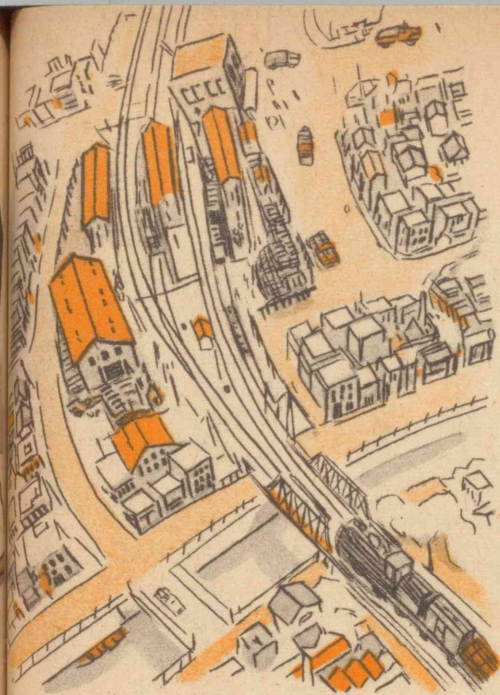
「おや、これはわか山のおじさんから

ではありませんか。」





といてひらいてみました。  
てがみには、みかんを汽しやでおくったことや、おじさん  
が一月の五日の朝八じに、こちらにおいでになることなどが  
書いてありました。



しげるくんは、

「うれしいな、おかあさん、わ  
か山のみかんはおいしいでしょ  
う。早くつかないかな。」  
といてよろこびました。

「さあ、てがみに二十二日にお  
くったとかいてあるから、も  
うすぐつくでしょう。」

「汽車につんでおくるのでは、  
みかんがいたんでしまわない  
かしら。」

「だいじょうぶよ。ちゃんとは

こずめにして、おくってくださいるのでしょうから。」

「おかあさん、いま、かもつ駅はにもつでいっばいですよ、  
まちがいなくとどくかしら。」

「しんぱいりませんよ。駅の人や、うんそうがいしやの人  
たちが、きちんとしごとをしていてくださるのですもの。」  
こんな話をしているうちに、いつのまにか、夕がたになり



ました。おとうさんも、おねえさんもかえってきました。うちじゅうの人が、うれしいたよりを見てよろこびました。

おとうさんが、

「二十二日におくったのでは、あと二、三日でとどくね。しげる、これでは

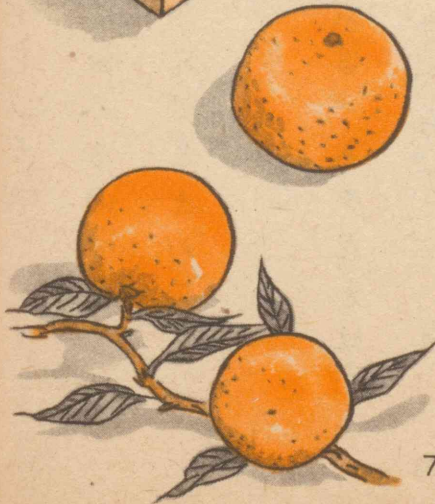
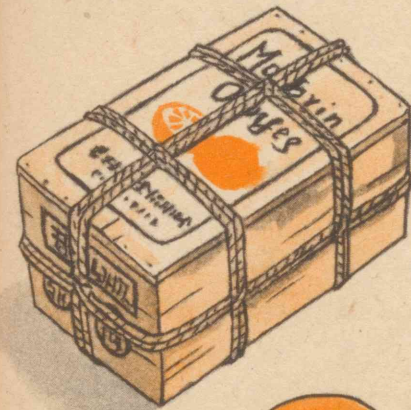
お正月がすこし

早くきそうだね。」

と、わらいました。

「おとうさん、お

じさんがいらつ



しゃったら、みんなで、えいが見ましようよ。きつとよろこびになるわ。」

とおねえさんがいきました。

「それがいいわ。おじさんのうちの正作しょうさくさんは、こんど、十

二さいになるのね、おとし玉に本ばこでも買って、おくつてあげましょうか。」

と、おかあさんがいきました。

「うん、そうしよう。」それがいいわ。」

と、うちじゅうの人が、さんせいしました。

おとうさんが夕しよくのあとで、わか山のいなかのようすを、いろいろ話してくださいました。





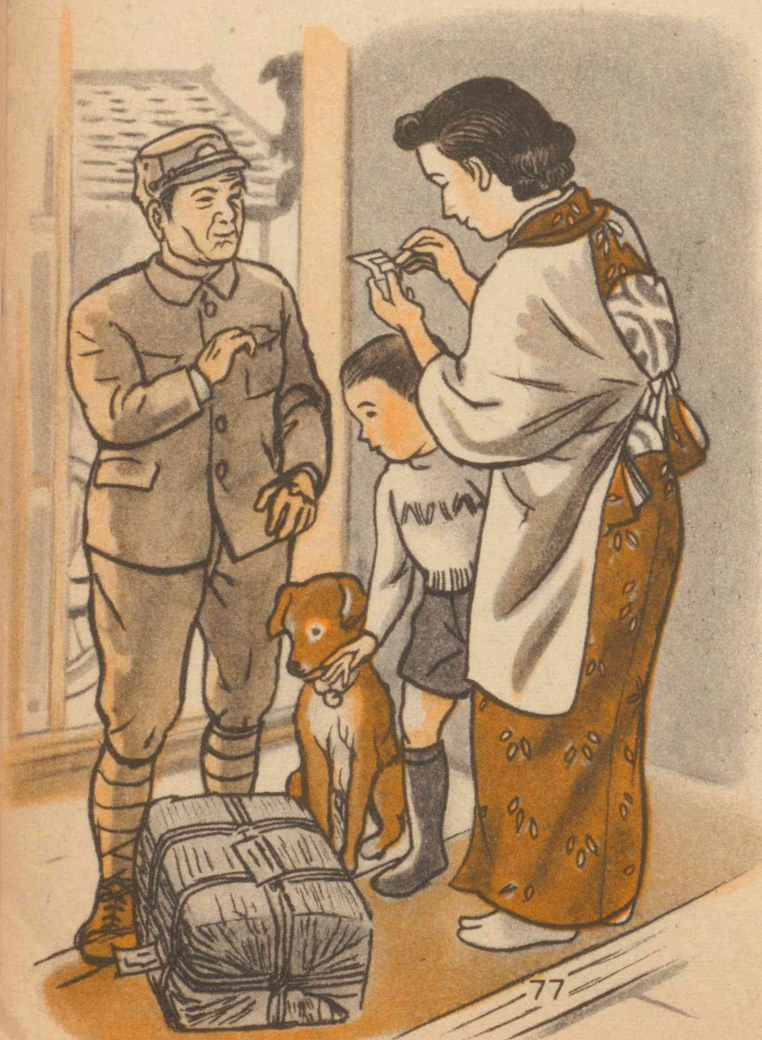
みかんは、わか山とか、しず  
 おかのような山ぞいのあたたか  
 いところに、よくできるわけも  
 話してくださいました。またむ  
 かしとちがって、いまでは、汽  
 しゃや船がべんりになったので、  
 早く、とおくの方にまで、くさ  
 らせずにはこべることなどを、  
 おもしろく話してくださいまし  
 た。

十二月二十七日のひるごろでした。

「大山さん、小にもつです。これに、はんをおしてください。」  
 といって、う

んそうがいしや  
 の人が、リヤ  
 カーで、みか  
 んをとどけて  
 くれました。

「どうも、ご  
 くろうさま。  
 ちよつと、





おまちください。」

といって、おかあさんが、はんをもってきてきて、かきつけにお  
しました。

「おかあさん、うんぱんちんをはらうのでしよう。」  
と、しげるくんがいました。

「いえ、これは、たくあつかいですから、おくれた方からい  
ただいてあるのです。さようなら。」

といって、はいたつのおじさんは、いそがしそうにかえつて  
行きました。

しげるくんは、木のにふだをめずらしそうに、ながめてい  
ました。

おかあさんが

「早いものですね。わか山から  
五日でとどくのですものね。  
てがみと、二日ちがいできた  
わ。こんなに早ければ、くだ  
もののようなものでも、安心  
しておくれるわね。」  
とおっしゃいました。

しげるくんは、とおいわか山  
がなんだか、すぐ近くにあるよ  
うに思えてなりませんでした。







夜、おとうさんといっ  
しよに、にもつをひら  
きました。  
きしやにゆれても、  
だいじょうぶなように、  
はこづめにして、じよ  
うずにづくりしてあ  
りました。

中から、おいしそうなみかんが、たくさん出てきました。  
みんなで、すこしいただいてから、あとはお正月のごちそ  
うにしまっておきました。

### かもつ駅

きょうは、おとうさんといっしよに、お正月の買いもの  
行きました。わか山の正作さんにおくる、本ばこも買ってき  
ました。かえってきてから、すぐ、にづくりをしました。

汽車にゆれても、いたまないように、いろいろくふうして  
つくりました。

木のにふだをつけ、あてなもかきいれました。

「さあ、しげる、これからおとうさんといっしよに、駅まで  
もって行って、汽しやではこんでもらおう。」  
とおっしゃいました。





「はい、行き  
ましよう。」  
と、しげるくん  
は、うれしそうに  
こたえました。  
「おとうさん、こ  
のにもつのうん  
ちは、いくらか  
かりますか。」  
「そうだね。どのくら  
いめかたがあるかね。  
しげる、かつげるかな、かもつのうんちは、めかたと、  
とどけさきがおいか、近いかできまるので、ちよつとわ  
からないね。駅でしらべてもらおう。」

とおっしやいまし  
た。しげるくんは、  
「うんとこさ」と、  
やつとかつぎました。  
「おや、しげるさ  
んも力もあになつ  
たわね。お正月  
がきて、おもち



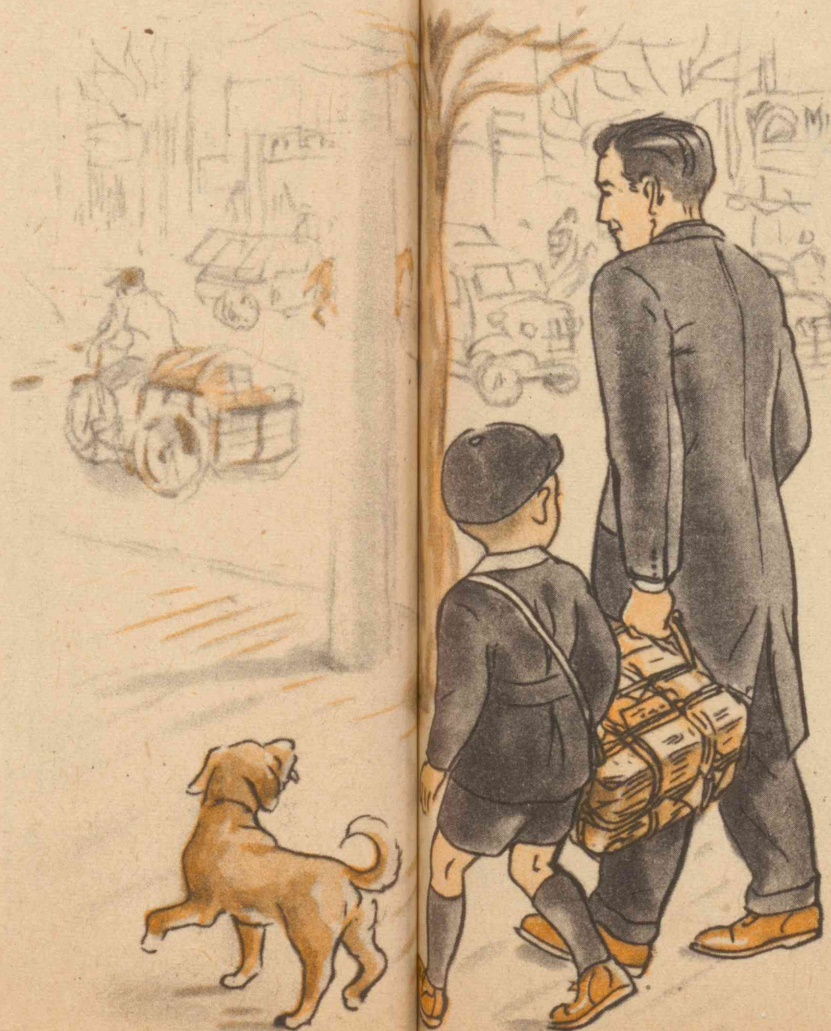


をいただくと、もつと力もちになれるわ。」  
と、おかあさんがおっしゃいました。  
ふたりは、にもつをもって出かけました。  
すこしのにもつでも、手にさげてあるいと大へん重  
かった。しげるくんは、手がつかれ、からだじゅうがほてっ  
てきました。

駅にむかって  
にもつをつんだ  
トラックが、い  
きおいよく走っ  
て行きます。駅

の方から、走っ  
てくるのもあり  
ます。リヤカー、  
牛しゃ、ばしゃ  
なども、いっぱい  
にもつをつんで

行ききしています。いつもは、あまり気づかずにいるので  
が、きょうは、とくべつ目についたとみえて、  
「おとうさん、ずいぶん、いろいろなものが、はこばれてい  
ますね、トラックは、一ばんたくさんにもつをつんでいて  
も、らくそうに走っていますね。」





といたしました。するとおとうさんが、

「そうだ。りくの上をはしるものでは、汽しゃ、電しゃ、トラックなどが、一ばんだらう。けれども、つむにもつやはこぶばしよによつて、リヤカー、牛しゃ、ばしゃなどもなかなかだいいじなやくめをしているよ。」

とおっしゃいました。

やがて、駅につきました。かいたつ口のうらてに、小にもつあつかいじよとかいたところがあります。

「このにもつをおねがいます。」

と、おとうさんが駅の人にいいました。

「はい、駅どめですか。」

と駅の人がこたえました。

「いや、たくあつかいにしてください。」

「はい、ちよつとお待ちください。」

といつて、駅の人のはめか

たをかけました。

それから、かきつけに

なにかかいて

「では、二百五十えんいただきます。あしたの朝の汽しゃにつみこみますから、五、六日てつ





くでしよう。」

といました。

おとうさんは、りょうきんをはらいました。

にもつ駅には、ほかにもたくさんのにもつが、山のようにつんでありました。

駅の人たちが、手わけをして、いろいろしごとをしていました。にもつをよりわけて、かもつホームにはこぶ人もいました。

むこうの方には、いまかもつれっしゃがついたところですよ。

駅の人や、うんそうがいしゃの人たちが、かきつけをしらべながら、にもつのつみおろしをしています。

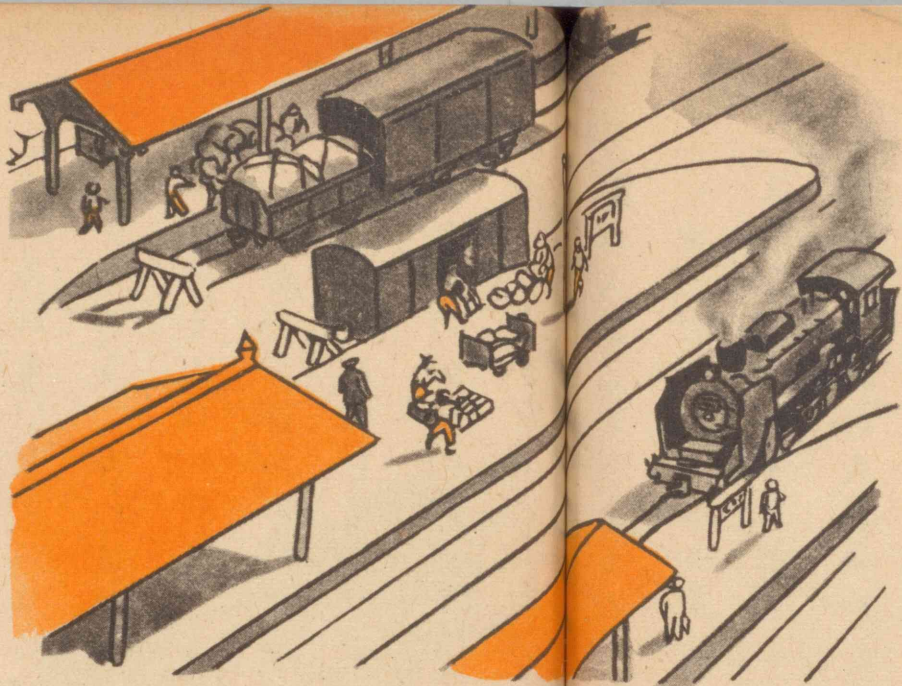
ひきこみせんには、はこかしゃが一だいとまっています、それにたわらをつんでいます。

「おとうさん、あなたわらには

なにがはいっているのですか。」

と、たずねました。

「あれは、町はずれにある山下ひりょう工場で、つくったひ





りようだろう。」

「どこにおくるのですか。」

「ひりようだから、いなかにおくるのだろう。」

「あつ、むこうから、ばしやが、きかいをはこんできましたよ。あれもいなかにはこばれるのですか。」

「そうだろう。あれはなわをなうきかいらしいから。」

しげるくんは、町でつくられるいろいろなものが、こうしていなかや、ほかの町におくられていくようすを、目をかがやかせて、じっと見ていました。

また、あの一つのきかんしやが長いいくつものかしやを、ひつばる大きな力におどろきました。

かしや

にも、大

きいもの、

小さいも

の、はこ

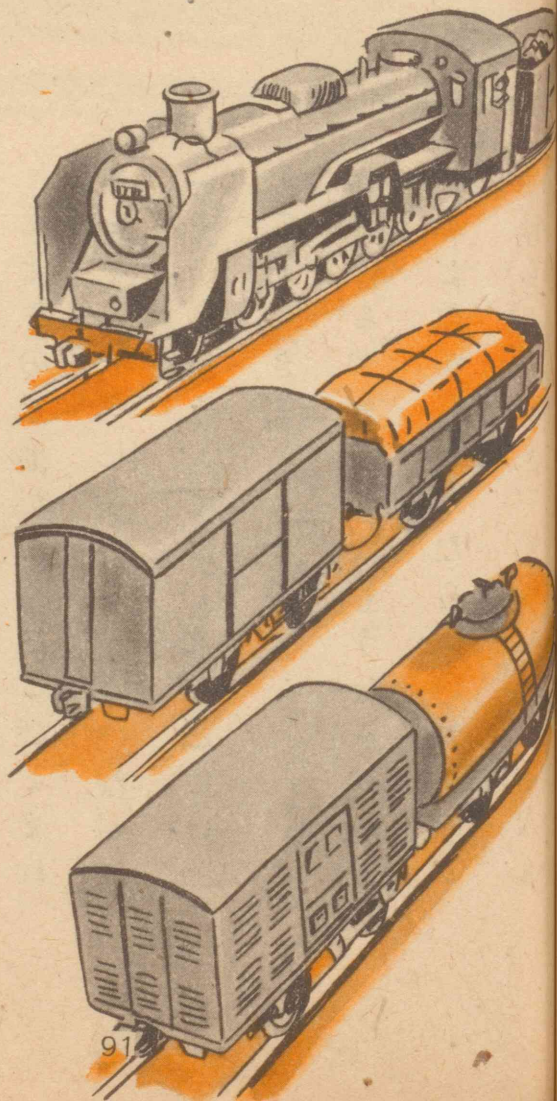
かしや、

やねのな

いかしや、

風の通るようになっていくかしや、動ぶつをはこぶかしやなど、いろいろなものがあることに気づきました。

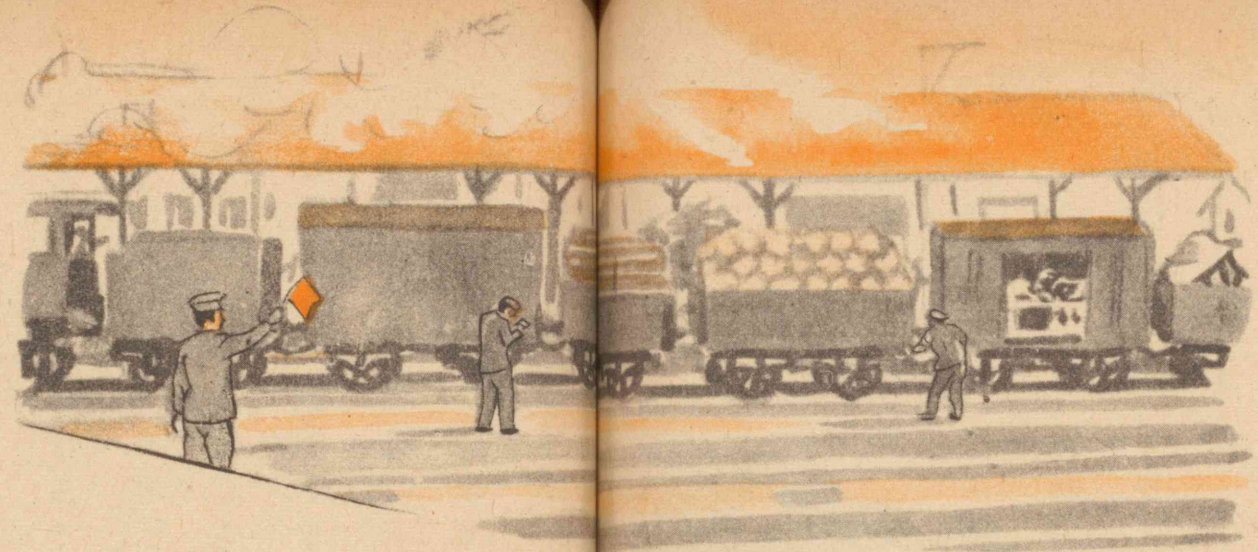
「おとうさん、ぼく、この駅からどんなものがつみだされる





かしらべてみたいな。それからかもつれっしやがどんなに  
できているかも」

「それは、おもしろいだろう。つみ  
出すにもつばかりでなく、この町  
によその土地から、はこびこまれ  
るものも、しらべるといいね」  
「そうしよう。では、あそこにいつ  
て見てきましょう」  
「しげる、きょうはもうおそいから、  
あしたからにしたらいいだろう。  
ほら、電気もついたし、駅の人も



夕がたはいそがしいから」  
「そうですね」

その時、ポポーガッシヤン、ガッシヤ  
ンと、きやくしやがはいってきました。  
たくさんの人びとが、のりおりを  
しています。やがて、カバンをさげ  
た人、ふろしきづつみをもった人た  
ちが、さむそうに、がითうのえり  
をたてて、いそぎ足でかいさつ口から、出ていきました。

夕がたの駅は、いっそうこんざつして  
ふたりは、いろいろ、話しあいながら、家にかえりました。



駅をつみに、おろしに、しらべ

きのうは、みんなで駅にいった、いろいろな人から、駅のことをおしえていただいでよく見てきました。

きょうは、しげるくんの家に四人の友だちが、集って、さかんにべんきょうをつづけています。

「これで、つみにしらべの表ができあがったね。」

「おくすりの絵が うまくかけなかったけれど、ほかはじょうずにできたね。」

「ぼくは、このしらべをするまで、町からのつみになど一つも知らなかったけれど、こんどはよくわかりました。」

「あら、おかしいわ。」

自分で、自分をほめたりして。」

と、きよ子さんがわらいました。

「町の人たちは、お米や、やさいなどをのうかの人たちにつくってもらっ

ているけれど、そのかわりに、のうかの人のだいじなものをつくってあげているのだね。」





「そうだね。こんどは、私たちの町によその土地からどんなものがはこばれてくるかをしらべて、表をつくらうよ。」  
 「そうね。でもわたしはもうなにが、はこばれてくるかしらべてあるわ。ほら、これよ。」  
 きよ子さんは、こういって、ちようめんをみんなに見せました。

「よくしらべてあるね。やっぱり、お米、ざいもく、まき、炭などがおおいんだね。」

「それに、今まで知らなかったせきたん、すな、石、セメント、鉄ざいなどもあるね。」

「まだあるよ。きよ子さん、だいじなものをぬかしたね。みかん。ぼくの家では、このあいだ、わか山からおくってもらったよ。」

「それから、おやさいもぬけているでしょう。」

「おやさいは、おもにトラックで近くの村から、はこばれるのですつて。」

「でも、

汽しや

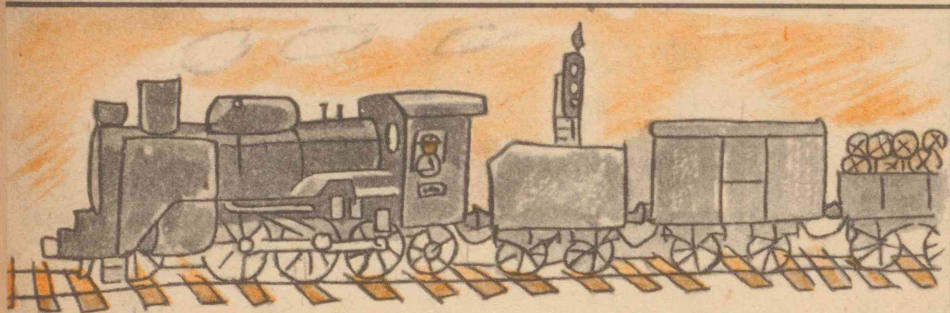
でもは

こぶで

しょう。」







家 <small>か</small> ぐ	おりのもの	しよくりよう	くすり	なべやかま	のうぐ	ひりよう
----------------------	-------	--------	-----	-------	-----	------

えきかしのしんしん  
山本ひで子大友あきこ

「汽しゃではこばれてくるものをぜんぶかいたら、それこそ大へんよ。五十も百もあるわよ。だから、その中でたくさんなはこばれてくるものだけにしなければ、かぎりがないわ。」

みんなは、しんけんになって、はこびこまれてくるしなものについて話しあいました。

わからないことは、いま一ど、駅に行つてしらべることにしました。

四人の人が、力をあわせて、しごとをしたので、きれいに早くできあがりました。

三学きがはじまったら、くみの人たちにはっぴようするこ  
とになりました。



おじさんの出むかえ

うれしいお正月がきました。

しげるくんは、まいにちげん気よくあそんでいます。いなかからおくってきたみかんが、家じゅうの人をよろこばせてくれました。

四日の夕ごはんのときでした。

おかあさんが、

「あしたの朝、わか山のおじさんがおつきになるのよ。しげるさん、おむかえにいらっしやいね。」

とおっしやいました。

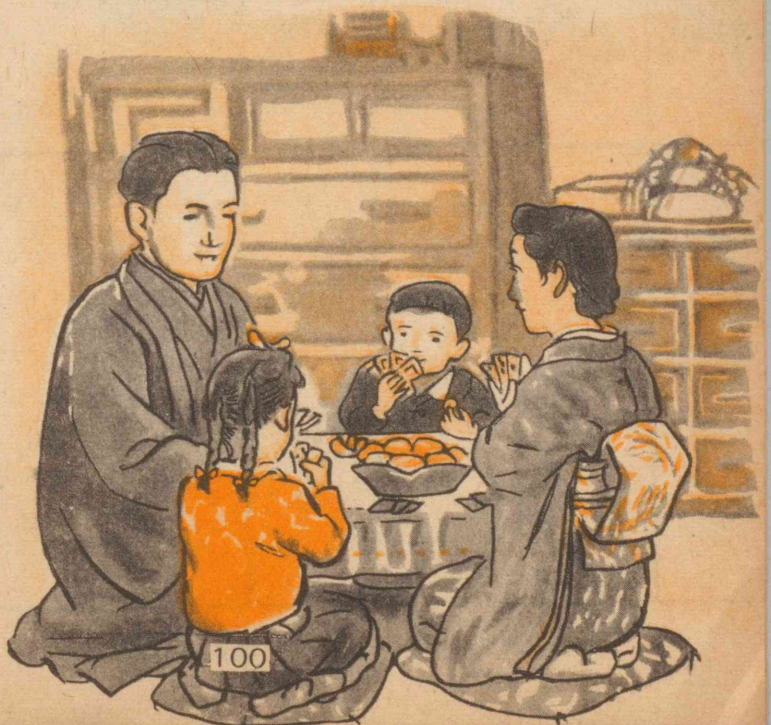
「わたしもいくわ。八時におつきになるのでしたね。」  
と、おねえさんがいました。

五日の朝は、よくはれわたっていました。しもがたくさんおりたらしく、どこのうちのやねも、白く見えました。

しげるくんと、おねえさんは、したくをして、家を出ました。駅についたら、ちょうど七時五十分のくだりれっしやがついたところでした。

「あと、十分たつと、おじさんののっているのぼりれっしやがつくのよ。」

と、おねえさんがいました。





にもつ駅をみると、としのくれにあつたほどのにもつは、

ありませんでした。

「しげるくん！」

とうしろからよびかけた人が、いました。ふりかえって見ると、あきらくんでした。

「どこへ行くの。」

「きょうは、おかあさんと、いなかへ行くの。」

「いま、汽しゃが出てしまったよ。」

「汽しゃで、行くのじゃないよ。」



「あそこから、電しゃにのって行くのだよ。ほらみなと町にえんそくにいったことがあるでしょう。」

「じゃ、むこうのかいさつ口からはいるんだね。」

「そう、早くおかあさんいらっしやらないかな。」

あきらくんは、まちどおしそうに、ふりかえって見ました。みると、おばさんがいそぎあしでいらっしやいました。

「おや、しげるさんたちね。どちらへ。」

「ぼくたち、いなかのおじさんがいらっしやるのをまっていますのです。こんどのぼりれっしやでいらっしやるのです。」

「ああそう。では、もうすぐね、ごめんください。」

と、電しゃのりばの方へいかれました。



見ると、電しゃにのる人も、かなりいるようでした。  
駅のかくせいきが「まもなく、二ばんせんにのぼりれっしや  
がつきます。白い線からさがっておまちください。」と知ら  
せていました。

二、三人の人が、いそいでホームへかけていきました。

やがて、ポポーと

汽てきを、空一ぱい  
にひびかせて、汽しゃ  
がホームへはいつて  
きました。

「おじさん、すぐ見

つかるかしら。」

「だいじょうぶよ。

ここで、ひとりひ

とり見ていれば。」

と、おねえさんがい

いました。

やがて、汽しゃが

つきました。

「さかえ駅、さかえ駅。」

大ぜいの人が、どや

どやとおりてきました。





「あっ、おじさんだ。」

しげるくんが、手をふってさげふと、むこうでもつをさげたおじさんも、にこにこしながら手をふりました。

やがて、かいさつ口を通過して、近づいていらっしやいました。

「やあ、しげるくんによし子さんか。大きくなったね。みんなじょうぶかね。」  
「はい。おじさん、おみかんありがとうございます。」

「いやー、それよりうちの正作が、本ばこをおくつていただいて、大そうよろこんでいたよ。ありがとう。」

「あっ、もうついたのですか、早いものですね。」

「さあ、行きましょう。やっぱり、町はにぎやかだね。」

「おや、又ここからあたらしいバスが出るようになったね。町は、ますますべんりになるね。」





「おじさん、にもつをもちましよう。」  
「いや、大じようぶだよ。汽しやもらくになつて、すわつてきたから。」

「でも、やこうでしたから、おつかれでしょう。わたしが、おもちするわ。」

「そうかね、では一つたのもうかね。」

「おじさん、いくじかんのつていたのですか。」

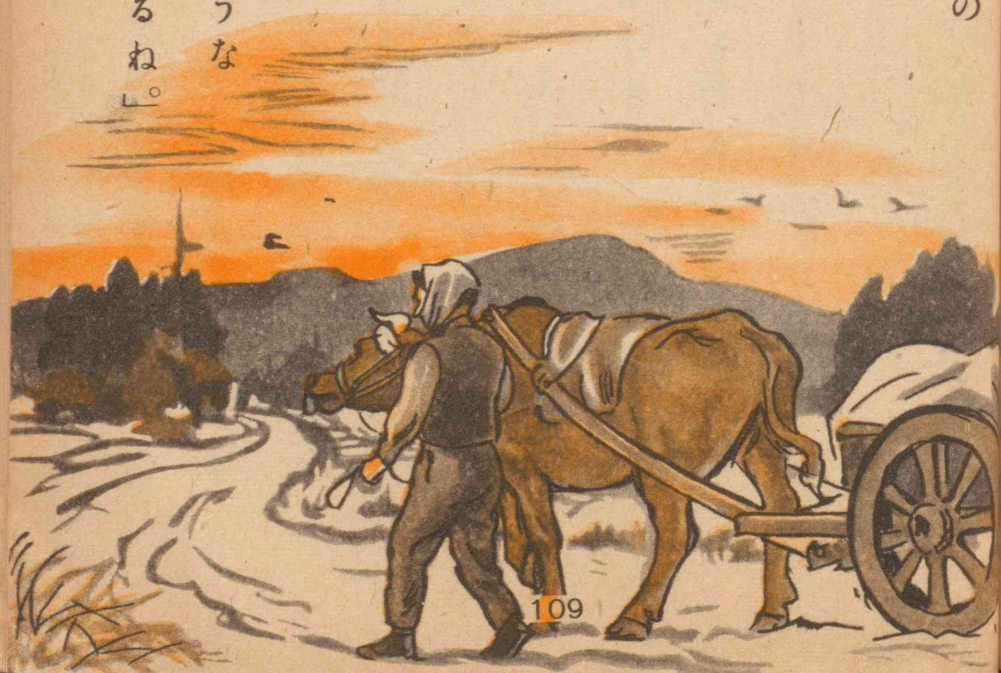
「そうだね、ゆうべ八じにきしやが出たのだから、十二じか  
んかね。」

「ずいぶん、のつたのですね。」

こんな話をしながら、家へいそぎました。

みちみち、おじさんが、いなかのりものや、むかしのりものものを話してくださいました。

「おじさんのいなかは、駅から二  
じかんもはいったところだから、  
まったくふべんだよ。そこで、  
近くの村の人びとが、そうだん  
しあつて、こんど、バスが通る  
ようにきめましたよ。きつとこと  
しじゆうにはできるでしょう。そうな  
れば、いまよりずっとべんりになるね。」



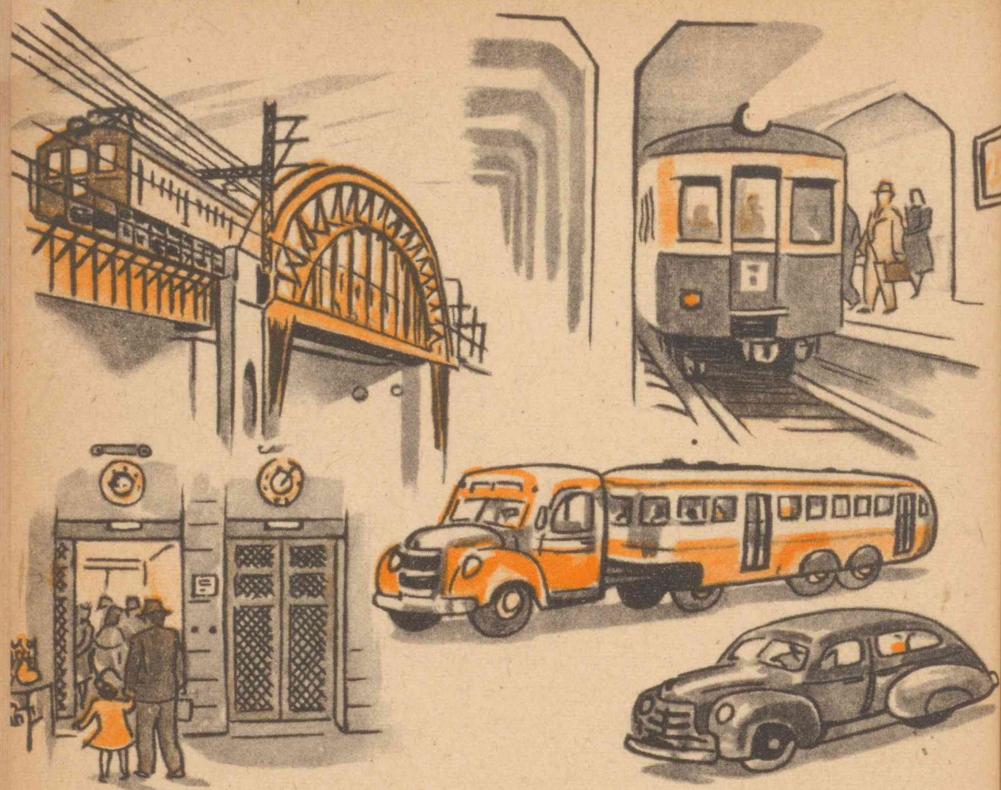




「ほそうどころか、じやりさえ  
しいてなかった。むかし、人  
は村からよそへ出かけるとか、  
ものをとおくにはこぶという  
こともすくなかった。なんで  
も自分たちで、こしらえてま  
にあわせていたのだよ。だか  
らのりものも、いまほどさか  
んではなくても、まにあった  
のだろう。」  
こんな話しをしているうちに、

「ものをうんぱんするには、どうしているのですか。」  
「きよねん、村のきょうどうくみあい、一だいトラックを  
買ったし、近くの町からも、トラックがはいってくるよ。  
だから、むかしのように手車で、にんげんがなんでもひつ  
ぱるといふことはすくなくなつた。でも、やっぱりリヤカ  
ー、牛しゃ、ばしやはなくてはならないものだよ。」  
「じゃ、むかしは、大そうふべんだつたでしょうね。」  
「それは、大へんなものだった。なにもかもにんげんの力で  
はこんだものだ。だい一、道がわるくてね。冬などは、ぬ  
かってあるけなかつたよ。」  
「ほそうしてなかつたのですね。」





さかえ町で、一番にぎやかな、大通りの四つかどにきました。  
 ピリピリピリー。こうつうじゆんさが、手をあげて、こう  
 つうせいりをしています。たくさんの人や車が、ひとりのじゆ  
 んさのさしずで、きそく正しく行ききしています。  
 みんなも、さしずにしたがつ  
 て、四つかどを通りぬけまし  
 た。

「こんなにかくさんの人が、  
 いるから、いろいろなもの  
 をはこばなければならぬ  
 のだね、町ののりものはひ



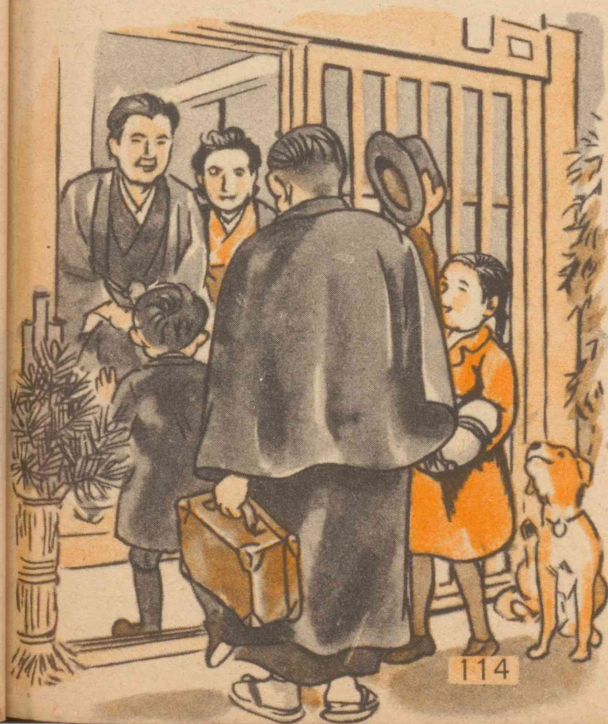
らけてゆくわけだね。」  
 「おじさん、この町もべ  
 んりだけれども、東京  
 へいくと、もつとすご  
 いわよ。地下鉄や、こ  
 うかせんや、とないで  
 んしやなどが、それこ  
 そ目のまわるように走っ  
 ていますもの。百かてん  
 などには、エレベーター  
 もあったわ。」



このあいだ、東京へ行ってきたばかりのおねえさんが、じまんそうに話しました。

やがて、みんなは家につきました。おかあさんや、おとう、さんが、げんかんに出むかえました。

「あけましておめでとぅ……。」  
とおたがい、うれしそうにごあいさつをしました。



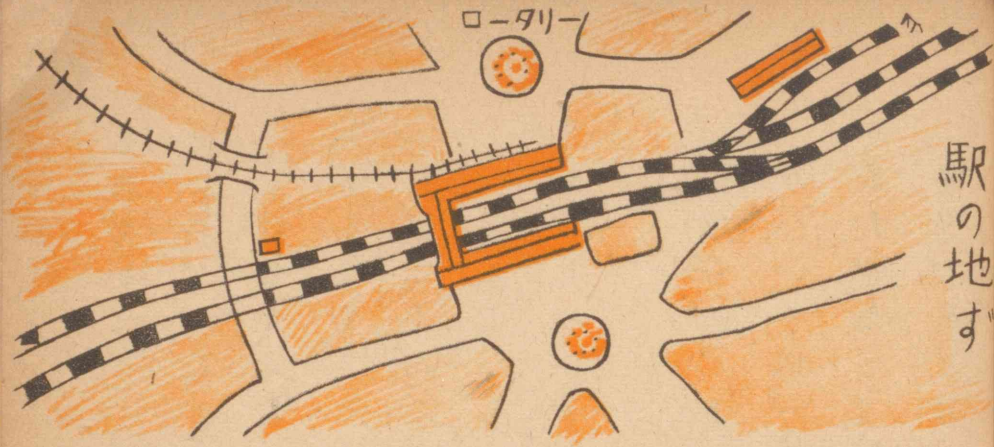
### のりものしらべ

三学きもはじまって、みんなべんきようをはじめました。一つ年をとったので、べんきようがじょうずになりました。一くみの人たちは、のりものしらべをはじめました。りくじょうのもの、すいじょうのもの、空とぶものにわけて、のりものえず表をつくるのです。

ところが、地下鉄や、こうかせんをどこにいったらよいか、みなさかんに話しあいましたけれども、なかなか考えがまとまりませんでした。先生が、

「さあ、どうしたらいいでしょうね、りくじょう、すいじよ





駅の地す

う、空とぶもののほかに、そのほかというのを、もう一つつくったらどうだろう。」とおっしゃいました。みんなが「それがいい」といって、さっそくしごとにとりかかりました。

二くみの人たちは、町の地すをつくって、

いろいろなのりもの

そのほか	空を とぶ もの	水の上を はしる もの	りく上を はしる もの

いろいろなのりものの道すじをかきいれています。地すにあらわす時には、北を紙の上の方に、南を下の方にかくことや、東の方を右に、西の方を左にかくことがよくわかりませんでした。そこで、先生が「ほら、この町の地すをよく見てごらん。地すの方がぐがよくわかるでしょう。」といって地すをみせながら、町のかたちを大きな紙にかいてくださいました。

「あとは、みんなで作ってごらんさい。よくそうだんしてやればきつとうまくで



きるでしよう。」

と行って、ほかのくみの方に行かれました。

しげるくんたちは三くみです。このくみは駅での、つみに、おろしにを、しらべて、表をつくっています。先生が、

「しげるくんたちは、冬やすみにもしらべたので、こんどは  
—そうよいものができるでしょう。」

とおっしゃいました。

しげるくんが

「私たちは、まえのよりもっとくわしくしらべて、表をつくりたいと思います。駅にしらべにいつていいですか。」

とおたずねしました。

「そうだね。ほかのくみも、それぞれしらべたいことがある

ので、あした一しよに出かけたらどうかね。」

「では、きょうはどんなことをしらべたらいいか、みんなできよく、そうだんしておきます。」

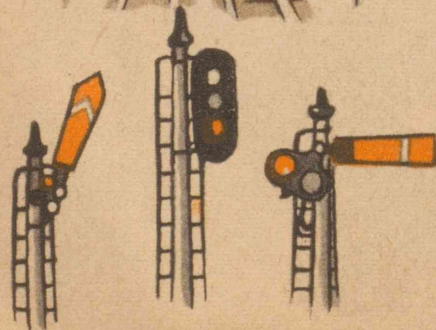
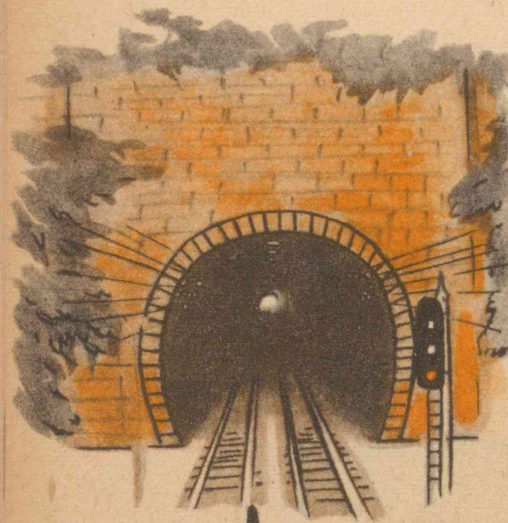
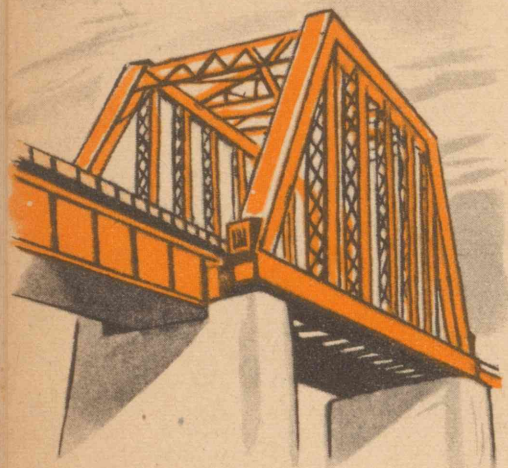
と、あきらくんがこたえました。

四くみは汽しやと電しやのもけいをつくっています。あつ紙で、おもしろそうにこしらえています。ゆき子さんが、  
「きかんしやには、車がいくつついていたかしら、…みよ子さん知っている。」

とたずねました。

「さあ、いくつあったかしら、わたしうっかりして、よく見てこなかったわ。」





ました。五くみの人たちは、トンネルや、鉄きよう、しんごう、てんてつきなどをしらべて、えにかいています。てつおくんのおとうさんは、駅につとめているので、てつおくんはいろいろなことをよく知っていました。みんなは、汽しやや、電しやが早く安ぜんに走れるわけがよくわかりました。

「こまったわ、…だれか知っているかしら。」  
だれもくびをひねっているばかりでした。じろうくんが  
「ちょっと待って、この本にあるかもし  
れない。」

といて、「きかんしや」という本をひら  
きました。みんながよって見ますと、車  
のかずも、きかんしやのかたちも、きれ  
いにかいてありました。

「みんな、これはよくわかる。これを見  
てつくろう。」

といて、たのしそうにしごとをはじめ





はっぴようかい

みんなで、駅のけん学  
にいたり、本を読みあつ  
たり、先生のお話をおき  
きして、だんだんべんきよ  
うが、すすんでいきまし  
た。きょうは、しげるく  
んたちのくみのはっぴよ  
うする日です。しげるく  
んや、あきらくんは、駅

での、つみに、おろしに  
の表を、こくばんにはり  
ました。

そしてつぎのようなはっ  
ぴようをしました。

「この駅からつみ出され  
るものは、おりもの、ひ  
りよう、のうぐ、なべか  
ま、くすり、かぐ、ざつ  
しるいです。この駅にお  
ろされるものは、お米、







「これはおもに、かもつれっしやではこぶものですか。」

「それはみんなかもつれっしやではこばれるのですか。」  
 「トラックやリヤカーでも、たくさんはこんでいます。」

「いいました。」

「おじいさんが、駅のまえで、うんそうてんをしているので、しらべるのにとつごうがよかつたのです。」  
 「なにかしつもんがありますか。」

「いも、やさいなどのしよくりよ  
 うひん、ざいもく、まき、炭、  
 せきたん、じやり、セメント、  
 せきざい、鉄ざいなどです。  
 この表をつくりながら気づいたことは、いままで知らなかつたひりょうや、くすりがこの町でたくさんつくられていること、せきたんが、たくさん町にはこびこまれているということでした。あきらくんの



「うんそうがいしゃのトラックではこぶものはいっていま  
す。」

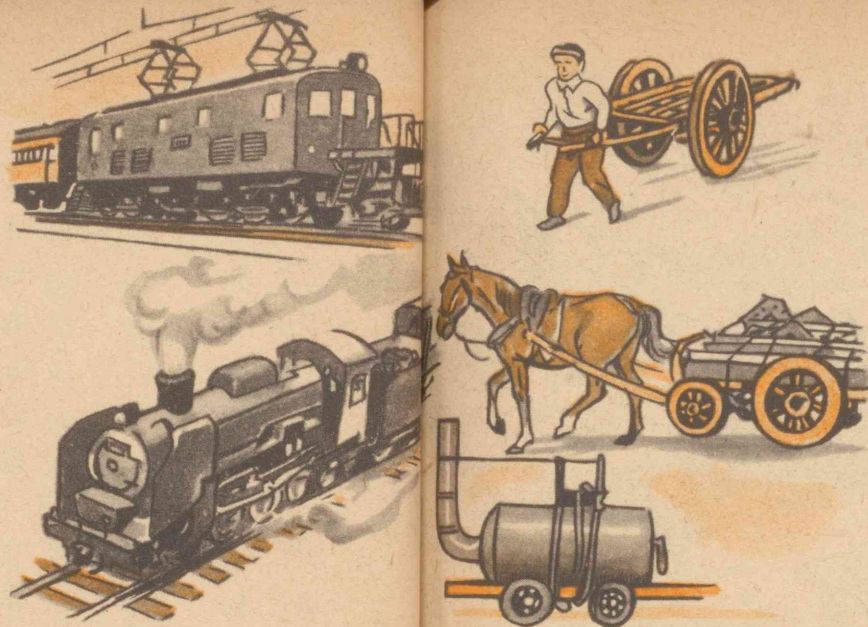
「もつとほかにあると思います。このあいだ、駅にたくさん、  
牛がはこばれてきましたよ。」

「それから、みかんや、りんごなどもありますよ。」

しげるくんたちは、ちよつとこ

まったかおをしました。先生が、

「どうぞですね。たしかに三くみの  
人たちが、かいたものだけでは  
ないでしょう。まだまだ、いろ  
いろあるでしょう。でも、この



表には、とくべつおおくはこば  
れるものをしらべてかいたので  
しよう。おろしにを、ぜんぶあ  
げれば、もつとたくさんになり  
ます。

「そのほかにききたいことは。」

「みかんはどこからくるのですか。」

「みかんは、わか山けんやしずおかけんです。ぼくのうちで  
も正月におくってもらいました。」

しげるくんは、とくいになってこたえました。

「ざいもくや、まきや、炭はどこからくるのですか。」



「さあ、それはまだしらべませんでした。」

先生が

「なかなかよいしつもんですね。これからみんなでしらべてみたいですね。駅からのつみには、いったいどこへ行くのでしょう。きっと北はほっかいどう、南は九しゅうの方まで行くものもあるでしょう。そのはんたいに、この駅におろされるものは、日本のさまざまなところからくるのでしよう。」

といて、むちで地ずをさしました。みんなの目は、教室にはつてある日本地ずにむけられました。

ちようどその時、ポポー、ガシャンコガシャンコという、かもつれっしやの力づよい音が、教室にひびいてきました。

### 先生と御両親のために

この本は、三年生の社会科の教科書としてつくられたものです。編さんの方針としては、上巻とともに「学習指導要領」社会科篇1と、その補説の趣旨を表わすことにつとめるとともに、子供の生活と、発達とに即することを旨としています。そのために子供が直接経験している地域社会の生活を足場として、のりもののはたらきと社会に於ける人間の日常生活とがどんな関連をもっているかを子供の程度に應じて、理解させるように工夫しました。さらにこの理解をおすすめて文明の開けない頃の交通運輸の状態とを比較させて昔から永い間人々が苦勞して



交通運輸の方法を工夫し、改良して来たことにも気づかせたいと考えました。

そしてやがて子供達がこの進んでいく社会に適應し、貢献していけるような理解や態度や能力を養いたいと意図しました。

以上はこの本全体を通じての方針ですが、特に、第一の「船とみなと」では

港の見学の経験を通して主として海の交通運輸を中心に学ばせ、それが人々の生活と、どのような関連を、持っているかを文のひらけない前の交通運輸とも対比させながら理解させるように考えました。

なお海運と陸運とのちがいやつながりについても理解させるようにしました。

学習内容としては、つぎのことからが主として考えられています。

○港と船着場のこと。

そこにある船の種類、乗客や貨物のこと。

鉄道との関連、船と観光や、魚のとり方のこと。

○鉄道と道路。

駅にはたらく人々の様子、乗客や貨物、郵便物、駅附近にある安全施設、トンネルや鉄橋のこと。

鉄道の開通以後の部落の変化。

昔の宿場や一里塚のこと。

つぎに第二の「かもつとかもつれっしや」では、

○年のくれに、ある家に和歌山からみかんが送られること。



○そのお礼に本箱をおくること。  
 ○和歌山のおじさんが町に出てくること。  
 これらの具体的な話を通して  
 ○土地と土地との相互依存と交通のはたしている役割。  
 ○交通運輸の様々なはたらきのこと。  
 ○郷土からのつみ荷、おろし荷のこと。  
 ○運輸にたずさわっている人々のしごと。  
 ○昔の人の交通のこと。  
 などを理解させようと考えました。  
 尚、子供の好む様々な学習活動を行わせることによって、此の様な理解を深め、且つ望ましい社会的態度や能力を養おうと意図してあります。

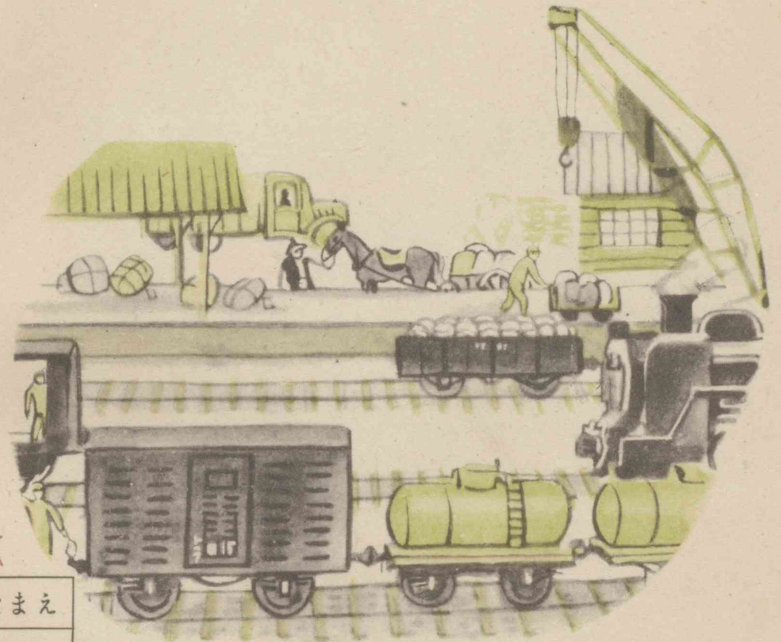
人 いた かい え  
 千 千 作  
 聖 聖 章  
 原 原 島  
 竹 竹 中  
 紙 文 目次  
 (表 本 扉)

Approved by Ministry  
 of Education  
 (Date Mar. 17, 1950)

のりものはたらき(小学校社会科第三学年後期用)  
 昭和二十五年三月十七日印刷  
 昭和二十五年三月二十一日発行  
 (昭和二十五年三月二十一日発行)  
 文部省検定済

著 者 青木誠四郎 植田正次  
 室井光義 片岡龍一  
 小山昌一 松村謙  
 染田屋謙相 森田康之助  
 木川達爾 野口竹夫  
 定 価 円 銭  
 発 行 者 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地  
 二葉株式会社  
 代 表 者 大野治輔  
 印 刷 者 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地  
 二葉株式会社  
 代 表 者 大野治輔  
 発 行 所 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地  
 二葉株式会社





なま元

広島大学図書

広島大学図書

0130449987



二葉株式会社

文庫

50

987